

〔 市民 〕

男女共同参画に関する市民アンケート調査

—調査結果報告書—

平成29年3月

横須賀市

目次

はじめに	1
I 調査の実施方法等	3
II 調査結果の表示について	3
III 調査結果の概要	4
IV 集計結果	7
回答者の属性	7
1 男女共同参画（社会）に関する考え方について	9
（問1）男女共同参画（社会）の言葉の認知度	
（問2）各場面（学校、就職、家庭、地域など）における男女共同参画の進捗状況	
（問3）男女共同参画を進める必要性	
（問4）男女共同参画の阻害要因	
（問5）男女共同参画を進める必要がない理由	
2 生活の中での男女共同参画について	15
（問6）「男は仕事、女は家庭」という考え方	
（問7）家事や子育て、介護の担い手（現状と理想）	
（問8）育児や教育に関する考え方	
（問9）介護・看護を受けるとしたら、誰に世話をしてほしいか	
3 女性の活躍推進について	23
（問10）女性の働き方（現状と理想）	
（問11）女性が長く働き続けるために必要なこと	
4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	27
（問12）ワーク・ライフ・バランスを進めるために必要な取り組み	
（問13）育児休業・看護休暇・介護休業・介護休暇の取得状況	

5 男性中心型労働慣行の是正について	30
(問14) 男性が育児休業・看護休暇・介護休業・介護休暇を取得することについての考え	
(問15) 男性の育児休業や介護休業の取得率が少ない理由	
(問16) 男性が家事、育児、介護、地域活動などに積極的に参加するために必要な取り組み	
6 女性の人権について (DV、セクハラなど)	33
(問17) 女性の人権が侵害されていると感じる場合	
(問18) セクハラ被害の経験 (本人または家族や友人の被害)	
(問19) セクハラをなくすために必要な取り組み	
(問20) 配偶者や恋人など親しい間柄における暴力は、一般社会における暴力と同様と 思うか	
(問21) DVに関する相談機関の認知度	
(問22) DVに対する対策や支援で、重要だと思う取り組みについて	
7 性的マイノリティについて	39
(問23) 性的マイノリティ (またはLGBT) の言葉の認知度	
(問24) 性別で悩んだ経験の有無	
(問25) 性的マイノリティの方々にとって、生活しづらい社会かどうかの考え	
(問26) 性的マイノリティの方々が生かされるための取り組み	
8 男女共同参画推進のために必要な取り組みについて	41
(問27) 男女共同参画社会をつくるために最も必要だと思うこと	
9 自由意見	47
■ 調査用紙	50

はじめに

横須賀市では、誰もが性別に関わらず個人として尊重され、あらゆる分野における活動に男女が協力し、互いに個性と能力を発揮し、その利益を享受できる社会を実現することを目的とし、平成13年（2001年）12月に横須賀市男女共同参画推進条例（以下「条例」という。）を制定しました。

さらに、この条例に基づき、男女共同参画の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、横須賀市男女共同参画プランを策定し、さまざまな取り組みを行ってきているところです。

現在は、平成25年度から平成29年度を計画期間とする「第4次横須賀市男女共同参画プラン」（以下「第4次プラン」という。）の実施期間中で、「男は仕事、女は家庭」といった性別による固定的な役割分担意識の解消、政策・方針決定過程における女性の参画拡大やワーク・ライフ・バランスの推進、男女共同参画社会の形成を阻害する重大な課題でもある女性に対する暴力を根絶する環境づくりなどに、3つの取り組みの方向性を掲げ、12の施策方針のもと、55の事業により推進しています。

市民アンケートを実施した目的の1点目は、現行の第4次男女共同参画プランの達成状況を測ることです。本プランには12の施策方針ごとに設けた目標値がありますが、その内の7つが市民アンケートの数値を使用します。

目的の2点目は、平成30年度から始まる次期プランの基礎資料とすることです。これは、本市の男女共同参画に関する現状や市民の意識とニーズを把握すると同時に、次期プラン策定にあたり第4次プランでも重点の1つとなっている「明確な目標設定と進行管理」に使用するためです。

市民アンケートの結果は、第4次プラン策定時に実施した前回調査（平成23年度）後、5年間の市民の意識変化等を検証し、また、新たな課題について考え、施策等の見直しをする上で、大変貴重な資料となります。

本調査の実施にあたりまして、ご協力をいただきました皆様に心からお礼を申し上げますとともに、男女共同参画推進への一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成29年（2017年）3月

横須賀市市民部人権・男女共同参画課

取り組みの方向性と施策方針一覧

取り組みの方向性1 個人を尊重する意識づくり

- 施策方針（1）男女共同参画についての理解の促進
- （2）固定的な性別役割分担意識の解消
- （3）男性や子どもにとっての男女共同参画の推進

取り組みの方向性2 男女ともに社会のあらゆる分野に参画できる社会づくり

- 施策方針（1）政策・方針決定過程への女性の参画拡大
- （2）働く女性への支援
- （3）地域活動における男女共同参画の推進
- （4）事業所と連携したワーク・ライフ・バランス推進
- （5）多様な育児等関連サービスの提供
- （6）市役所の男女共同参画モデル事業所の取り組み

取り組みの方向性3 DV（ドメスティック・バイオレンス）やセクシュアル・ハラスメントを根絶する環境づくり

- 施策方針（1）DV被害者への支援
- （2）DVに関する啓発の充実
- （3）セクシュアル・ハラスメントは人権侵害だという社会意識づくりの推進

I 調査の実施方法等

調査の実施方法等

(1) 調査対象

- 平成28年6月30日現在の横須賀市住民20歳以上70歳未満の男女各1,000人、計2,000人を無作為に抽出

(2) 調査の実施主体

- 横須賀市

(3) 調査の配布・回収

- メール便による配布、郵便による回収

(4) 調査期間

- 平成28年8月5日(金)～8月31日(水)

(5) 回収数（回収率）

- 910件（45.5%）

II 調査結果の表示について

- この調査報告書に掲載している数値は四捨五入の端数処理をしているため、合計と内訳の合計が一致しない場合があります。
- 「回答者の属性」の部分を除き、数値データには無回答は含めていません。
- 属性（性別、年齢等）無回答であった人の回答は、全体集計には含んでいますが、属性ごとの集計には含んでいません。
- 調査結果の表中に「選択率」の表記がある数値は、選択肢を複数選べる設問において、各選択肢を何%の人が選んだかを表します。（問11、17、21、22、26、27④）

Ⅲ 調査結果の概要

1 男女共同参画（社会）に関する考え方について

- (1) 男女共同参画（社会）の言葉の認知度（問1）
 - ・「知っている」と回答した人が※54.7%でした。
 - ※第4次プランの目標値「認知度83%以上」
- (2) 各場面（学校、就職、家庭、地域など）における男女共同参画の進捗状況（問2）
 - ・「思う」「やや思う」の合計が7割を超えたのは、「④学校などの教育の場」でした。
 - ・すべての項目で男性が女性より、「思う」「やや思う」の合計が多くなっています。
- (3) 男女共同参画を進める必要性（問3）
 - ・「進める必要がある」と回答した人が79.6%でした。
- (4) 男女共同参画の阻害要因（問4）
 - ・男女共同参画を阻害している理由としては「社会全般に男性優位の考え方や慣習が根強いから」という回答が最も多くなっています。
- (5) 男女共同参画を進める必要はない理由（問5）
 - ・「男女では性別による身体の違いや能力差、適性に応じた役割があるから」と回答した人が最も多くなっています。

2 生活の中での男女共同参画について

- (1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方（問6）
 - ・「賛成」「やや賛成」と回答した人の合計が※34.2%でした。
 - ※第4次プランの目標値「肯定する回答27%以下」
- (2) 家事や子育て、介護の担い手（現状と理想）（問7）
 - ・現状では、9項目中、7項目で「主に妻」と回答した人が最も多くなっています。
 - ・理想では「夫と妻で分担協力」とした回答がすべての項目で6割を超えました。
- (3) 家庭での育児や教育に関する考え方（問8）
 - ・4項目中、「①職業や結婚などの人生設計に対する助言は男女で区別するべきである」との考え方について、「賛成」「やや賛成」と回答した人の合計が※40.6%でした。
 - ※第4次プランの目標値「肯定する回答39%以下」
- (4) 介護・看護を受けるとしたら、誰に世話をしてほしいか（問9）
 - ・「施設に入所する」との回答が最も多く、これに「配偶者（夫または妻）」「在宅介護サービスを利用する」が続いています。

3 女性の活躍推進について

- (1) 女性の働き方（現状と理想）（問10）
 - ・「（1）女性の現在の働き方」では「ずっと働く」と回答した人の合計が※45.2%でした。
 - ※第4次プランの目標値「ずっと働く回答50%以上」

- ・「(2) 女性の理想の働き方」では「ずっと働く」と回答した人の合計が※48.8%でした。
※第4次プランの目標値「ずっと働く回答50%以上」

(2) 女性が長く働き続けるために必要なこと (問11)

- ・「保育サービスの整備の充実」と回答した人が最も多く49.4%でした。

4 仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス) について

(1) ワーク・ライフ・バランスを進めるために必要な取り組み (問12)

- ・「出産や育児、介護等に関するサービスの充実」と「両立支援のための制度の強化」と回答した人が、ほぼ並んで多くなっています。

(2) 育児休業・看護休暇・介護休業・介護休暇の取得状況 (問13)

- ・「①育児休業」、「②看護休暇」は女性の取得率が高く、「④介護休暇」は男性が高くなっています。

5 男性中心型労働慣行の是正について

(1) 男性が育児休業・看護休暇・介護休業・介護休暇を取得することについての考え (問14)

- ・「積極的に取るべき」「どちらかといえば取る方がよい」と回答した人の回答の合計は、4項目ともに8割以上でした。

(2) 男性の育児休業や介護休業の取得率が少ない理由 (問15)

- ・「職場の理解が得られないから」と回答した人が最も多くなっています。

(3) 男性が家事、育児、介護、地域活動などに積極的に参加するために必要な取り組み (問16)

- ・「労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間を多く持てるようにする」と回答した人が最も多くなっています。

6 女性の人権について (DV、セクハラなど)

(1) 女性の人権が侵害されていると感じる場合 (問17)

- ・「レイプ」と回答した人が70.0%と最も多く、これに「痴漢」「職場や学校、地域でのセクハラ」が続いています。

(2) セクハラ被害の経験 (本人または家族や友人の被害) (問18)

- ・「⑧性的な冗談や会話につきあわされた」について、「ある」と回答した男性は※17.0%、女性は※24.9%でした。
※第4次プランの目標値 (男性) 10%以下 (女性) 16%以下

(3) セクハラをなくすために必要な取り組み (問19)

- ・「セクハラは人権侵害だという社会意識づくり」と回答した人が47.3%で最も多くなっています。

(4) 配偶者や恋人など親しい間柄における暴力は、一般社会における暴力と同様と思うか (問20)

- ・「思う」「まあまあ思う」と回答した人の合計が※92.7%でした。
※第4次プランの目標値100%

(5) DVに関する相談機関の認知度（問21）

- ・「警察」と回答した人が81.5%で最も多く、これに「市役所」が37.2%と続いています。
- ・DVに関して「相談できる機関を知らない」と回答した人が※18.1%でした。
※第4次プランの目標値8%以下

(6) DVに対する対策や支援で、重要だと思う取り組み（問22）

- ・「いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備」と回答した人が51.5%で最も多く、これに「家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発」「加害者に対する厳正な対処」が続いています。

7 性的マイノリティについて

(1) 性的マイノリティ（またはLGBT）の言葉の認知度（問23）

- ・「はい（知っている）」と回答した人が65.8%でした。

(2) 性別で悩んだ経験の有無（問24）

- ・「はい（悩んだことがある）」と回答した人が3.1%でした。

(3) 性的マイノリティの方々にとって、生活しづらい社会かどうかの考え（問25）

- ・「思う」「どちらかと言えば思う」と回答した人の合計が77.5%でした。

(4) 性的マイノリティの方々が生かしやすくなるための取り組み（問26）

- ・「法律等に性的マイノリティの方々への偏見や差別解消の取り組みを明記する」と回答した人が最も多く、これに「生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う」が続いています。

8 男女共同参画推進のために必要な取り組みについて

(1) 男女共同参画社会をつくるために最も必要だと思うこと（問27）

- ・「①個人で心掛けること」では、「男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ」と回答した人が最も多くなっています。
- ・「②家庭での取り組み」では、「家事、育児、介護は男女を問わず分担し、協力する」と回答した人が最も多くなっています。
- ・「③社会全体の取り組み」では、「性別に関わらず自分の人生を決められるよう、偏見や先入観を排除する」と回答した人が最も多くなっています。
- ・「④横須賀市における取り組み」では、「事業所に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける」と回答した人が最も多くなっています。

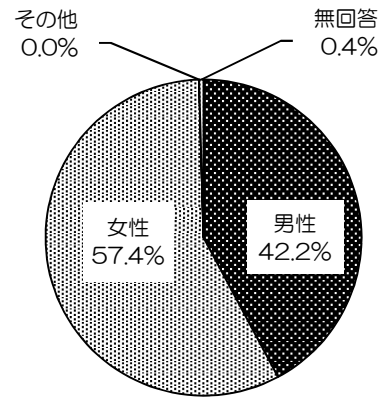
IV 集計結果

回答者の属性

①性別

回答者の57.4%が女性となっています。その他を選択した人はいませんでした。

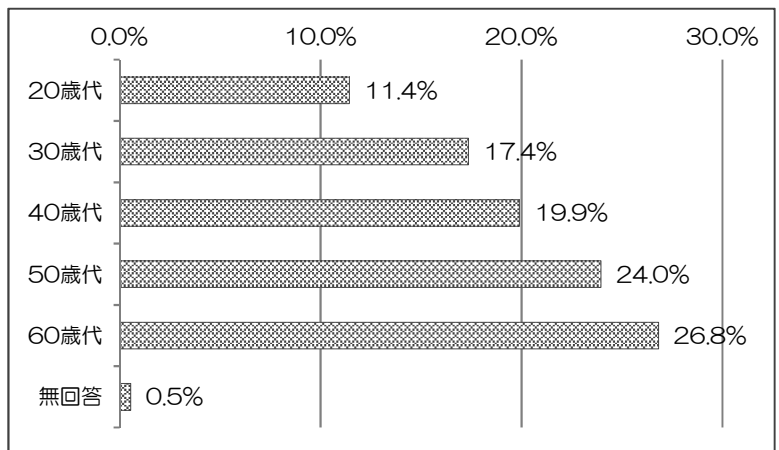
選択肢	回答数	割合
男性	384人	42.2%
女性	522人	57.4%
その他	0人	0.0%
無回答	4人	0.4%
合計	910人	100.0%



②年齢

60歳代の回答者が最も多く、50歳代と60歳代を合計すると、50.8%となっています。

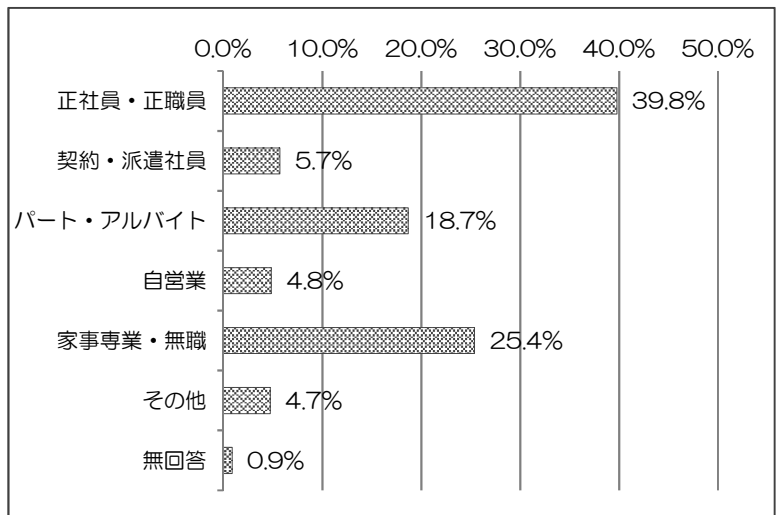
選択肢	回答数	割合
20歳代	104人	11.4%
30歳代	158人	17.4%
40歳代	181人	19.9%
50歳代	218人	24.0%
60歳代	244人	26.8%
無回答	5人	0.5%
合計	910人	100.0%



③働き方

回答者の39.8%が「正社員・正職員」で最も多く、これに「家事専業・無職」、「パート・アルバイト」が続いています。

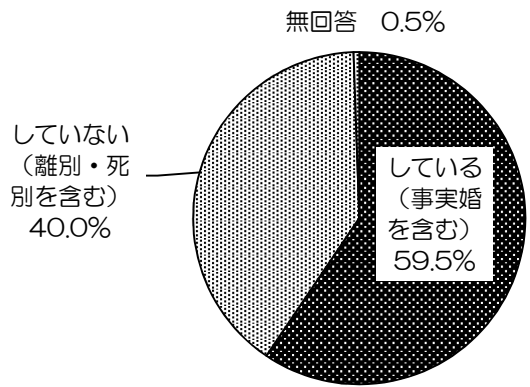
選択肢	回答数	割合
正社員・正職員	362人	39.8%
契約・派遣社員	52人	5.7%
パート・アルバイト	170人	18.7%
自営業	44人	4.8%
家事専業・無職	231人	25.4%
その他	43人	4.7%
無回答	8人	0.9%
合計	910人	100.0%



④結婚はしていますか

「結婚をしている」の回答が、59.5%となっています。

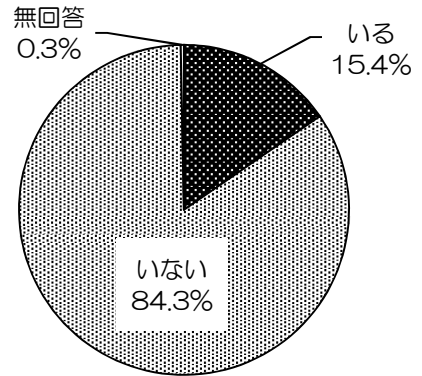
選 択 肢	回答数	割合
している（事実婚を含む）	541 人	59.5%
していない （離別・死別を含む）	364 人	40.0%
無回答	5 人	0.5%
合 計	910 人	100.0%



⑤中学生以下のお子さんはいますか

「いる」の回答が、15.4%となっています。

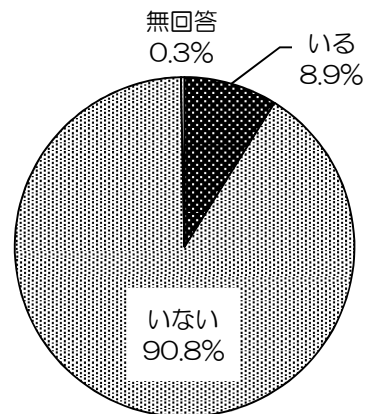
選 択 肢	回答数	割合
いる	140 人	15.4%
いない	767 人	84.3%
無回答	3 人	0.3%
合 計	910 人	100.0%



⑥同一世帯に介護が必要な家族（配偶者以外）はいますか

「いる」の回答が、8.9%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
いる	81 人	8.9%
いない	826 人	90.8%
無回答	3 人	0.3%
合 計	910 人	100.0%



1 男女共同参画（社会）に関する考え方について

問1 「男女共同参画（社会）」という言葉を知っていますか。

どちらか1つ選んでください。

「知っている」の回答が54.7%となっています。

【平成23年度調査・第4次プラン目標値との比較】

平成23年度調査での、認知度52.9%、から微増しましたが、第4次プランの目標値83%には大きく下回りました。

選択肢	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合
はい	54.7%	58.5%	51.8%	52.9%
いいえ	45.3%	41.5%	48.2%	44.2%
合計人数	866人	366人	496人	1,225人

【年齢別】

選択肢	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
はい	54.7%	67.3%	49.4%	46.3%	56.1%	58.0%
いいえ	45.3%	32.7%	50.6%	53.7%	43.9%	42.0%
合計人数	866人	101人	156人	175人	205人	224人

問2 以下の各場面では、男女は対等に活躍している、あるいは男女共同参画が進んでいると思いますか。

①から⑩の項目ごとに1つずつ選んでください。

「思う」「やや思う」を合計して、7割を超えたのは④でした。
6割弱であったのは、②⑥⑧⑨の4項目、5割弱であったのは、①⑦⑩の3項目でした。
4割に満たなかったのは、③⑤の2項目でした。
全ての項目で男性が女性より、「思う」「やや思う」の合計が多くなっています。

【平成23年度調査との比較】

「思う」「やや思う」の合計は、①③⑤⑥の4項目で前回より増えましたが、②④⑦⑧⑨⑩の6項目では減り、全項目の総計では、前回より微減した結果となりました。

①社会全般の風潮

選択肢	全体		男性		女性		平成23年度調査	
	割合		割合		割合		割合	
思う	8.2%	49.7%	13.1%	59.2%	4.7%	42.8%	7.8%	45.8%
やや思う	41.5%		46.1%		38.1%		38.0%	
あまり思わない	40.7%	50.2%	33.1%	40.8%	46.4%	57.2%	45.8%	54.2%
思わない	9.5%		7.7%		10.8%		8.4%	
合計人数	886人		375人		507人		1,211人	

②法律・制度での扱い

選択肢	全体		男性		女性		平成23年度調査	
	割合		割合		割合		割合	
思う	11.4%	53.0%	19.2%	66.1%	5.4%	43.1%	16.8%	62.9%
やや思う	41.6%		46.9%		37.7%		46.1%	
あまり思わない	38.4%	47.0%	27.5%	33.9%	46.5%	56.9%	30.0%	37.0%
思わない	8.6%		6.4%		10.4%		7.0%	
合計人数	880人		375人		501人		1,205人	

③政府や企業での重要な意思決定の場

選択肢	全体		男性		女性		平成23年度調査	
	割合		割合		割合		割合	
思う	6.3%	36.1%	9.1%	44.1%	4.2%	30.4%	7.8%	35.4%
やや思う	29.8%		35.0%		26.2%		27.6%	
あまり思わない	46.8%	63.8%	42.2%	55.8%	50.2%	69.6%	47.7%	64.5%
思わない	17.0%		13.6%		19.4%		16.8%	
合計人数	882人		374人		504人		1,201人	

④学校などの教育の場

選択肢	全体		男性		女性		平成 23 年度調査	
	割合		割合		割合		割合	
思う	21.7%	70.2%	28.2%	75.8%	16.8%	66.2%	30.5%	78.3%
やや思う	48.5%		47.6%		49.4%		47.8%	
あまり思わない	24.2%	29.8%	18.8%	24.2%	28.0%	33.8%	18.2%	21.7%
思わない	5.6%		5.4%		5.8%		3.5%	
合計人数	876 人		372 人		500 人		1,199 人	

⑤就職の機会、職場での働き方や処遇

選択肢	全体		男性		女性		平成 23 年度調査	
	割合		割合		割合		割合	
思う	6.1%	39.2%	9.1%	47.2%	4.0%	33.5%	5.9%	34.3%
やや思う	33.1%		38.1%		29.5%		28.4%	
あまり思わない	44.9%	60.7%	39.7%	52.8%	48.6%	66.5%	47.3%	65.6%
思わない	15.8%		13.1%		17.9%		18.3%	
合計人数	879 人		373 人		502 人		1,200 人	

⑥家庭内での決定権や家事の分担

選択肢	全体		男性		女性		平成 23 年度調査	
	割合		割合		割合		割合	
思う	15.4%	52.8%	21.6%	64.5%	10.7%	44.0%	12.5%	48.2%
やや思う	37.4%		42.9%		33.3%		35.7%	
あまり思わない	35.5%	47.2%	29.6%	35.5%	39.9%	56.0%	38.3%	51.8%
思わない	11.7%		5.9%		16.1%		13.5%	
合計人数	879 人		371 人		504 人		1,199 人	

⑦町内会・自治会の活動

選択肢	全体		男性		女性		平成 23 年度調査	
	割合		割合		割合		割合	
思う	10.7%	47.9%	17.3%	57.8%	6.0%	40.7%	15.1%	60.7%
やや思う	37.2%		40.5%		34.7%		45.6%	
あまり思わない	41.8%	52.1%	35.4%	42.2%	46.4%	59.3%	30.9%	39.3%
思わない	10.3%		6.8%		12.9%		8.4%	
合計人数	876 人		370 人		502 人		1,197 人	

⑧PTAやボランティアなどの地域活動

選択肢	全体		男性		女性		平成23年度調査	
	割合		割合		割合		割合	
思う	15.2%	56.8%	22.6%	67.9%	9.6%	48.4%	21.3%	67.5%
やや思う	41.6%		45.3%		38.8%		46.2%	
あまり思わない	34.6%	43.2%	25.3%	32.0%	41.6%	51.6%	25.1%	32.5%
思わない	8.6%		6.7%		10.0%		7.4%	
合計人数	875人		371人		500人		1,193人	

⑨テレビや新聞での扱われ方

選択肢	全体		男性		女性		平成23年度調査	
	割合		割合		割合		割合	
思う	9.8%	54.9%	16.6%	62.9%	4.6%	48.7%	17.3%	61.1%
やや思う	45.1%		46.3%		44.1%		43.8%	
あまり思わない	36.9%	45.2%	29.9%	37.1%	42.1%	51.2%	32.8%	39.0%
思わない	8.3%		7.2%		9.1%		6.2%	
合計人数	881人		374人		503人		1,200人	

⑩人生を決める選択肢や自由さ

選択肢	全体		男性		女性		平成23年度調査	
	割合		割合		割合		割合	
思う	11.5%	46.5%	16.5%	56.5%	7.7%	39.2%	16.8%	47.6%
やや思う	35.0%		40.0%		31.5%		30.8%	
あまり思わない	39.4%	53.5%	33.3%	43.4%	43.6%	60.8%	37.9%	52.4%
思わない	14.1%		10.1%		17.2%		14.5%	
合計人数	884人		375人		505人		1,203人	

問3 男女共同参画を進める必要があると思いますか。どちらか1つ選んでください。

「進める必要がある」の回答が79.6%となっています。

【平成23年度調査との比較】

「進める必要がある」の回答は、平成23年度調査の78.8%から微増しました。

選択肢	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合
進める必要がある	79.6%	76.7%	81.9%	78.8%
進める必要はない	20.4%	23.3%	18.1%	21.2%
合計人数	873人	378人	492人	1,207人

(問3で「1 進める必要がある」と回答した方だけお答えください)

問4 男女共同参画を阻害している理由として、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

「社会全般に男性優位の考え方や慣習が根強いから」の回答が最も多く27.5%となっています。
「女性の役割は家庭内の家事、育児、介護などという考えが強いから」の回答を選んだ女性は男性より15ポイント高くなっています。

【平成23年度調査との比較】

平成23年度調査では「仕事と家庭の両立が図れるような行政・民間サービスが不足している」の回答が一番多く33.5%でした。

選択肢	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合
人を性別によって役割を区別する考え方や慣習が根強いから	20.1%	27.6%	14.5%	12.4%
女性は意思決定の場への進出が遅れていることで発言力が弱いから	2.7%	3.9%	1.8%	5.4%
女性の役割は家庭内での家事、育児、介護などという考えが強いから	17.3%	8.5%	23.5%	19.5%
社会全般に男性優位の考え方や慣習が根強いから	27.5%	24.0%	30.2%	23.4%
女性には高い職業能力や意思決定の場に出るための経験や機会が不足しているから	6.7%	7.8%	5.9%	3.8%
仕事と家庭の両立が図れる行政サービス、民間サービスが不足しているから	22.9%	23.3%	22.7%	33.5%
その他	2.8%	4.9%	1.3%	1.9%
合計人数	672人	283人	387人	940人

■ 「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・男性が考える女性の特性と、女性が考える女性の特性にズレがある。かつ、個々の差があるため
- ・性別による身体の違い、能力差等がある
- ・一般的に女性のみが仕事と家事育児等の両立を求められるから

(問3で「2 進める必要はない」と回答した方だけお答えください)

問5 男女共同参画を進める必要はないと思う理由について、1つ選んでください。

回答者(男女共同参画を進める必要はないと考えている人)の66.7%が、「男女では性別による身体の違いや能力差、適性に応じた役割があるから」を選択しています。

「すでに男女共同参画社会になっているから」の回答を選択した人では、男性が女性より16ポイント高く、「男女では性別による身体の違いや能力差、適性に応じた役割があるから」を選択した人では、女性が男性より23.9ポイント高くなっています。

【平成23年度調査との比較】

「女性は男性に従うべき」という慣習や価値観があるから」を選択した人は、平成23年度調査の女性3.1%から1.2%へ、男性では2.4%から0%へと減りました。

選択肢	全体 割合	男性 割合	女性 割合	平成23年度調査		
				全体	男性	女性
				割合	割合	割合
すでに男女共同参画社会になっているから	14.9%	23.0%	7.0%	11.8%	15.1%	8.5%
男女では性別による身体の違いや能力差、 適性に応じた役割があるから	66.7%	55.2%	79.1%	72.2%	65.1%	79.1%
「女性は男性に従うべき」という慣習や価値観があるから	0.6%	0.0%	1.2%	2.7%	2.4%	3.1%
社会的に女性の発言力が強くなっているから	14.9%	18.4%	11.6%	7.8%	11.1%	4.7%
その他	2.9%	3.4%	1.2%	5.5%	6.3%	4.7%
合計人数	174人	87人	86人	255人	126人	129人

■「その他」への記入事項(特徴的なもの)

- 進めているが、女性が乗って来てないと思う
- 対等と謳っているが、女性を優遇するだけになるため
- 子供を育て、なおかつ仕事とは、不平等に感じる

2 生活の中での男女共同参画について

問6 「男は外で仕事をするべき、女は家庭を守るべき」という考え方に対して、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

「賛成」「やや賛成」の合計の回答は、34.2%となっています。

【平成23年度調査・第4次プランの目標値との比較】

「賛成」「やや賛成」の合計の回答は、平成23年度調査の41.0%から6.8ポイント減りましたが、第4次プランの目標値27%は達成できませんでした。

選択肢	全体		男性		女性		平成23年度調査	
	割合		割合		割合		割合	
賛成	3.5%	34.2%	3.7%	38.9%	3.5%	30.9%	6.0%	41.0%
やや賛成	30.7%		35.2%		27.4%		35.0%	
やや反対	37.8%	65.8%	35.5%	61.1%	39.6%	69.1%	31.9%	59.0%
反対	28.0%		25.6%		29.5%		27.1%	
合計人数	903人		383人		518人		1,193人	

【年齢別】

選択肢	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
賛成	3.5%	3.9%	2.5%	3.3%	5.6%	2.5%
やや賛成	30.7%	34.3%	35.4%	29.8%	27.3%	29.3%
やや反対	37.8%	35.3%	36.1%	39.2%	39.8%	37.6%
反対	28.0%	26.5%	25.9%	27.6%	27.3%	30.6%
合計人数	903人	102人	158人	181人	216人	242人

【結婚の有無別】

選択肢	全体	結婚している (事実婚を含む)	結婚していない (離別・死別を含む)
賛成	3.5%	4.1%	2.8%
やや賛成	30.7%	32.2%	28.5%
やや反対	37.8%	36.4%	39.9%
反対	28.0%	27.3%	28.8%
合計人数	903人	538人	361人

(現在、夫婦(事実婚を含む)で暮らしている方だけお答えください)

問7 家事などは誰が日常的に担っていますか。また、理想ではどうしたいと考えていますか。①から⑨の項目ごとに1つずつ選んでください。

現在の担い手では、9項目中、7項目で「主に妻」の回答が最も多くなっています。
理想の担い手では、「夫と妻で分担協力」とした回答がすべての項目で、6割を超えています。

【平成23年度調査との比較】

回答割合の多かった選択肢の傾向は、現在の担い手、理想の担い手ともに、平成23年度調査とほぼ変わりませんでした。

①炊事

選択肢	(1) 現在の担い手				(2) 理想の担い手			
	全体	男性	女性	平成23年度調査	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
夫と妻で分担協力	20.1%	23.9%	17.7%	9.5%	68.7%	68.7%	68.6%	54.9%
主に妻	76.1%	70.9%	79.5%	85.2%	29.8%	29.9%	29.7%	38.4%
主に夫	2.2%	3.8%	1.2%	1.8%	0.2%	0.5%	0.0%	0.4%
夫と妻以外の家族	0.9%	0.9%	0.9%	1.5%	0.2%	0.0%	0.3%	0.1%
外部サービスを利用	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.6%	0.5%	0.7%	1.2%
その他	0.6%	0.5%	0.6%	1.9%	0.6%	0.5%	0.7%	4.9%
合計人数	536人	213人	322人	676人	504人	201人	303人	669人

②洗濯

選択肢	(1) 現在の担い手				(2) 理想の担い手			
	全体	男性	女性	平成23年度調査	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
夫と妻で分担協力	16.8%	22.5%	13.0%	12.6%	60.9%	67.3%	56.6%	52.7%
主に妻	77.6%	72.8%	80.7%	81.1%	36.5%	31.2%	40.1%	40.5%
主に夫	3.9%	3.3%	4.3%	3.1%	1.0%	1.0%	1.0%	1.4%
夫と妻以外の家族	1.1%	0.9%	1.2%	1.5%	0.4%	0.0%	0.7%	0.6%
外部サービスを利用	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.4%	0.0%	0.7%	0.6%
その他	0.6%	0.5%	0.6%	1.6%	0.8%	0.5%	1.0%	4.2%
合計人数	536人	213人	322人	667人	504人	202人	302人	666人

③掃除

選択肢	(1) 現在の担い手				(2) 理想の担い手			
	全体	男性	女性	平成23年度調査	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
夫と妻で分担協力	27.9%	36.6%	22.2%	22.7%	76.4%	78.1%	75.2%	69.4%
主に妻	65.2%	54.9%	71.9%	68.7%	19.8%	18.9%	20.5%	22.0%
主に夫	5.2%	6.6%	4.4%	5.2%	1.6%	2.5%	1.0%	2.7%
夫と妻以外の家族	0.9%	0.9%	0.9%	1.2%	0.2%	0.0%	0.3%	0.7%
外部サービスを利用	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	1.2%	0.0%	2.0%	1.5%
その他	0.7%	0.9%	0.6%	1.9%	0.8%	0.5%	1.0%	3.6%
合計人数	534人	213人	320人	677人	504人	201人	303人	667人

④日常の買い物（食料品、日用品など）

選択肢	(1) 現在の担い手				(2) 理想の担い手			
	全体	男性	女性	平成23年度調査	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
夫と妻で分担協力	44.9%	56.3%	37.4%	35.5%	79.4%	83.6%	76.6%	69.4%
主に妻	49.9%	36.2%	58.9%	58.2%	16.5%	13.4%	18.5%	24.7%
主に夫	3.0%	5.6%	1.2%	2.8%	1.2%	1.5%	1.0%	0.9%
夫と妻以外の家族	0.4%	0.0%	0.6%	1.2%	0.2%	0.0%	0.3%	0.6%
外部サービスを利用	0.4%	0.9%	0.0%	0.6%	1.2%	0.5%	1.7%	1.7
その他	1.5%	0.9%	1.9%	1.8%	1.6%	1.0%	2.0%	2.7%
合計人数	535人	213人	321人	674人	504人	201人	303人	663人

⑤子どもの身のまわりの世話

選択肢	(1) 現在の担い手				(2) 理想の担い手			
	全体	男性	女性	平成23年度調査	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
夫と妻で分担協力	22.2%	27.2%	18.8%	8.4%	69.6%	66.5%	71.7%	53.4%
主に妻	59.0%	47.8%	66.5%	59.9%	21.3%	21.6%	21.1%	23.2%
主に夫	0.2%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
夫と妻以外の家族	0.7%	0.0%	1.2%	0.8%	0.7%	0.5%	0.8%	0.3%
外部サービスを利用	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	17.9%	24.4%	13.5%	30.9	8.4%	11.4%	6.4%	23.0%
合計人数	441人	180人	260人	621人	450人	185人	265人	625人

⑥子どものしつけ

選択肢	(1) 現在の担い手				(2) 理想の担い手			
	全体	男性	女性	平成23年度調査	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
夫と妻で分担協力	46.5%	50.3%	43.6%	31.7%	86.5%	82.9%	89.1%	71.2%
主に妻	34.5%	24.9%	41.3%	34.3%	3.3%	4.3%	2.6%	5.1%
主に夫	1.4%	2.2%	0.8%	1.4%	2.2%	3.2%	1.5%	1.1%
夫と妻以外の家族	0.7%	0.0%	1.2%	1.1%	0.4%	0.5%	0.4%	0.5%
外部サービスを利用	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	17.0%	22.7%	13.1%	31.4%	7.5%	9.1%	6.4%	22.1%
合計人数	441人	181人	259人	621人	453人	187人	266人	624人

⑦子どもと遊ぶ、勉強などを教える

選択肢	(1) 現在の担い手				(2) 理想の担い手			
	全体	男性	女性	平成23年度調査	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
夫と妻で分担協力	48.7%	52.8%	45.7%	34.6%	86.8%	83.9%	88.9%	70.8%
主に妻	28.0%	17.2%	35.8%	26.7%	1.3%	2.2%	0.8%	2.2%
主に夫	4.1%	5.6%	3.1%	3.9%	2.5%	3.8%	1.5%	2.4%
夫と妻以外の家族	0.5%	0.0%	0.8%	1.5%	0.7%	0.5%	0.8%	0.3%
外部サービスを利用	0.7%	1.1%	0.4%	0.5%	0.7%	0.5%	0.8%	0.5%
その他	17.9%	23.3%	14.2%	33.0%	8.0%	9.1%	7.3%	23.8%
合計人数	435人	180人	254人	619人	448人	186人	262人	627人

⑧高齢者や障害者、病人の介護・看護

選択肢	(1) 現在の担い手				(2) 理想の担い手			
	全体	男性	女性	平成23年度調査	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
夫と妻で分担協力	31.5%	38.8%	26.8%	15.8%	73.7%	78.1%	70.8%	53.0%
主に妻	33.6%	20.0%	42.8%	28.4%	2.8%	3.3%	2.6%	4.6%
主に夫	1.2%	2.4%	0.4%	0.8%	0.2%	0.0%	0.4%	0.2%
夫と妻以外の家族	0.9%	0.6%	1.2%	1.3%	0.4%	0.0%	0.7%	0.6%
外部サービスを利用	3.3%	2.4%	3.9%	1.8%	12.7%	6.6%	16.8%	12.4%
その他	29.4%	35.9%	24.9%	51.9%	10.1%	12.0%	8.8%	29.2%
合計人数	428人	170人	257人	626人	457人	183人	274人	627人

⑨地域活動（自治会、PTAなど）

選択肢	(1) 現在の担い手				(2) 理想の担い手			
	全体	男性	女性	平成23年度調査	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
夫と妻で分担協力	28.9%	34.3%	25.3%	17.9%	83.9%	82.9%	84.5%	71.3%
主に妻	47.6%	33.3%	57.1%	50.3%	4.2%	4.7%	3.9%	6.3%
主に夫	10.6%	15.4%	7.4%	11.5%	4.2%	4.7%	3.9%	8.5%
夫と妻以外の家族	0.6%	0.0%	1.0%	0.9%	0.6%	0.0%	1.1%	0.3%
外部サービスを利用	0.4%	0.5%	0.3%	0.5%	1.0%	1.0%	1.1%	0.6%
その他	11.8%	16.4%	8.8%	18.9%	6.1%	6.7%	5.6%	13.0%
合計人数	498人	201人	296人	660人	477人	193人	284人	656人

（全員、お答えください）

問8 家庭での子どもの教育やしつけについて、あなたの考えに最も近いものを項目ごとに1つずつ選んでください。

①では、「反対」「やや反対」の合計が女性は64.6%で、男性の52.2%より12.4ポイント高くなっています。

②では、「賛成」と回答した男性は22.3%で、女性の11.9%より10.4ポイント高くなっています。

③では、「賛成」「やや賛成」の合計が98.2%でした。

④では、「反対」「やや反対」の合計が90.8%でした。

【平成23年度調査・第4次プランの目標値との比較】

①は「賛成」「やや賛成」の合計が40.6%で平成23年度調査の49.4%から8.8ポイント減りましたが、第4次プランの目標値39%は達成できませんでした。

②で「賛成」「やや賛成」と回答した人の合計は、53.2%で平成23年度調査の62.7%から9.5ポイント低くなりました。

①職業や結婚などの人生設計に対する助言は男女で区別するべきである

選択肢	全体	男性		女性		平成23年度調査	
	割合	割合	割合	割合	割合	割合	
賛成	10.0%	40.6%	15.1%	47.9%	6.2%	35.4%	17.6%
やや賛成	30.6%		32.8%		29.2%		31.8%
やや反対	30.9%	59.4%	24.2%	52.2%	35.8%	64.6%	25.6%
反対	28.5%		28.0%		28.8%		25.0%
合計人数	878人		372人		503人		1,209人

【年齢別】

選択肢	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
賛成	10.0%	10.0%	11.5%	11.8%	10.8%	6.6%
やや賛成	30.6%	38.0%	29.5%	30.3%	28.8%	30.4%
やや反対	30.9%	34.0%	35.3%	34.3%	34.9%	19.8%
反対	28.5%	18.0%	23.7%	23.6%	25.5%	43.2%
合計人数	878人	100人	156人	178人	212人	227人

【中学生以下の子どもの有無別】

選択肢	全体	中学生以下の子どもがいる	中学生以下の子どもはいない
賛成	10.0%	10.8%	9.8%
やや賛成	30.6%	36.7%	29.6%
やや反対	30.9%	30.9%	30.8%
反対	28.5%	21.6%	29.8%
合計人数	878人	139人	736人

②男の子は男らしく強く、女の子は女らしく心優しく育てるべきである

選択肢	全体		男性		女性		平成23年度調査	
	割合		割合		割合		割合	
賛成	16.3%	53.2%	22.3%	56.7%	11.9%	50.5%	25.6%	62.7%
やや賛成	36.9%		34.4%		38.6%		37.1%	
やや反対	27.9%	46.8%	25.3%	43.3%	29.8%	49.5%	23.9%	37.3%
反対	18.9%		18.0%		19.7%		13.4%	
合計人数	878人		372人		503人		1,210人	

【年齢別】

選択肢	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
賛成	16.3%	12.9%	16.1%	14.0%	15.6%	20.2%
やや賛成	36.9%	28.7%	35.5%	34.3%	41.2%	39.5%
やや反対	27.9%	34.7%	30.3%	31.5%	26.5%	21.5%
反対	18.9%	23.8%	18.1%	20.2%	16.6%	18.9%
合計人数	878人	101人	155人	178人	211人	228人

【中学生以下の子どもの有無別】

選択肢	全体	中学生以下の子どもがいる	中学生以下の子どもはいない
賛成	16.3%	10.8%	9.8%
やや賛成	36.9%	36.7%	29.6%
やや反対	27.9%	30.9%	30.8%
反対	18.9%	21.6%	29.8%
合計人数	878人	139人	736人

③食事の支度や洗濯など日常的な家事は男女を問わず身に付けさせるべきである

選択肢	全体		男性		女性		平成23年度調査	
	割合		割合		割合		割合	
賛成	78.3%	98.2%	71.9%	96.2%	82.8%	99.6%	79.9%	98.2%
やや賛成	19.9%		24.3%		16.8%		18.3%	
やや反対	1.5%	1.8%	2.9%	3.7%	0.4%	0.4%	1.2%	1.9%
反対	0.3%		0.8%		0.0%		0.7%	
合計人数	883人		374人		506人		1,213人	

【年齢別】

選択肢	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
賛成	78.3%	80.2%	86.5%	77.7%	74.9%	75.9%
やや賛成	19.9%	17.8%	12.3%	21.2%	24.2%	21.6%
やや反対	1.5%	2.0%	0.6%	0.6%	0.9%	2.6%
反対	0.3%	0.0%	0.6%	0.6%	0.0%	0.0%
合計人数	883人	101人	155人	179人	211人	232人

【中学生以下の子どもの有無別】

選択肢	全体	中学生以下の子どもがいる	中学生以下の子どもはいない
賛成	78.3%	10.8%	9.7%
やや賛成	19.9%	36.7%	29.4%
やや反対	1.5%	30.9%	30.6%
反対	0.3%	21.6%	29.6%
合計人数	883人	139人	741人

④家庭での子どものしつけや教育は母親の責任で行うべきである

選択肢	全体		男性		女性		平成23年度調査	
	割合		割合		割合		割合	
賛成	0.7%	9.2%	0.3%	10.5%	1.0%	8.0%	2.2%	12.0%
やや賛成	8.5%		10.2%		7.0%		9.8%	
やや反対	31.7%	90.8%	34.7%	89.5%	29.4%	92.0%	29.1%	88.0%
反対	59.1%		54.8%		62.6%		58.9%	
合計人数	878人		372人		503人		1,208人	

【年齢別】

選択肢	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
賛成	0.7%	3.0%	0.0%	0.6%	0.5%	0.4%
やや賛成	8.5%	5.9%	5.2%	7.9%	11.8%	8.8%
やや反対	31.7%	34.7%	28.4%	35.4%	33.6%	27.6%
反対	59.1%	56.4%	66.5%	56.2%	54.0%	63.2%
合計人数	878人	101人	155人	178人	211人	228人

【中学生の子どもの有無別】

選択肢	全体	中学生以下の子どもがいる	中学生以下の子どもはいない
賛成	0.7%	10.8%	9.8%
やや賛成	8.5%	36.7%	29.6%
やや反対	31.7%	30.9%	30.8%
反対	59.1%	21.6%	29.8%
合計人数	878人	139人	736人

問9 あなたが介護・看護を受けるとしたら、主に誰に世話をしてほしいですか。

1つ選んでください。

男女合計では、「施設に入所する」と回答した人が最も多く、これに「配偶者」「在宅介護サービスを利用する」が続いています。

「配偶者（夫または妻）」と回答した男性は39.0%で、女性の21.2%より17.8ポイント高くなっています。

「在宅介護サービスを利用する」と回答した女性は30.1%で、男性の19.1%より11ポイント高くなっています。

「息子の妻」または「娘の夫」と回答した人はいませんでした。

【平成23年度調査との比較】

平成23年度調査（男女合計）では「配偶者（夫または妻）」と回答した人が最も多く34.6%でしたが、今回調査では、28.7%へと減り、「在宅介護サービスを利用する」は23.5%から25.3%へ、「施設に入所する」は25.9%から31.2%へとそれぞれ増えました。

選択肢	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合
配偶者（夫または妻）	28.7%	39.0%	21.2%	34.6%
実の娘	7.3%	2.7%	10.6%	8.7%
実の息子	0.4%	0.3%	0.6%	1.3%
息子の妻	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
娘の夫	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
その他の家族	0.9%	0.5%	1.2%	0.8%
在宅介護サービスを利用する	25.3%	19.1%	30.1%	23.5%
施設に入所する	31.2%	31.3%	31.0%	25.9%
その他	6.2%	7.2%	5.3%	4.5%
合計人数	889人	377人	509人	1,216人

3 女性の活躍推進について

問10 女性の（１）現在の働き方（２）理想の働き方について、それぞれ1つずつ選んでください。

※女性はご自身について、男性は妻（事実婚を含む）の働き方についてお答えください。

※妻がいない男性は、（２）理想の働き方のみお答えください。

「（１）女性の現在の働き方」「（２）女性の理想の働き方」ともに「子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く」とした回答が最も多くなっています。

「ずっと働く（結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす）」と「ずっと働く（勤務条件等を変えない）」と合計した回答は「（１）女性の現在の働き方」では45.2%、「（２）女性の理想の働き方」では、48.8%となりました。

【平成23年度調査・第4次プランの目標値との比較】

「ずっと働く」を合計した回答は、前回調査の「（１）女性の現在の働き方」27.3%、「（２）女性の理想の働き方」27%からそれぞれ増えましたが、第4次プランの目標値「女性の現在の働き方・理想の働き方 ずっと働くの回答50%以上」は達成できませんでした。

（女性および妻がいる男性のみ、お答えください）

（１）女性の現在の働き方

選択肢	全体		男性	女性	平成23年度調査
	割合		割合	割合	割合
ずっと働く（勤務条件等を変えない）	19.1%	45.2%	14.1%	21.7%	27.3%
ずっと働く（結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす）	26.1%		24.9%	26.7%	
結婚までは働き、結婚を機に仕事を辞める	5.7%		6.6%	5.2%	11.3%
子どもができるまで働き、出産を機に仕事を辞める	10.9%		10.3%	11.2%	16.8%
子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く	29.9%		33.8%	28.1%	29.6%
ずっと職業を持たず、家事に専念する	2.4%		2.8%	2.1%	4.6%
その他	6.0%		7.5%	5.0%	10.4%
合計人数	635人		213人	420人	972人

【年齢別】

選択肢	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
ずっと働く（勤務条件等を変えない）	19.1%	23.5%	19.8%	25.2%	21.6%	10.1%
ずっと働く（結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす）	26.1%	31.4%	26.1%	25.9%	24.1%	26.6%
結婚までは働き、結婚を機に仕事を辞める	5.7%	3.9%	5.4%	5.8%	4.3%	7.7%
子どもができるまで働き、出産を機に仕事を辞める	10.9%	5.9%	15.3%	12.2%	10.5%	8.9%
子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く	29.9%	27.5%	28.8%	20.1%	33.3%	36.1%
ずっと職業を持たず、家事に専念する	2.4%	0.0%	3.6%	3.6%	0.6%	3.0%
その他	6.0%	7.8%	0.9%	7.2%	5.6%	7.7%
合計人数	635人	51人	111人	139人	162人	169人

【働き方別】

選択肢	全体	正社員 正職員	契約 派遣社員	パート アルバイト	自営業	家事専業 無職	その他
ずっと働く（勤務条件等を変えない）	19.1%	30.1%	38.7%	9.9%	22.6%	6.0%	9.5%
ずっと働く（結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす）	26.1%	26.3%	35.5%	34.7%	16.1%	18.1%	33.3%
結婚までは働き、結婚を機に仕事を辞める	5.7%	3.5%	0.0%	3.3%	6.5%	12.7%	0.0%
子どもができるまで働き、出産を機に仕事を辞める	10.9%	8.5%	6.5%	9.9%	3.2%	18.1%	4.8%
子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く	29.9%	26.3%	16.1%	34.7%	35.5%	34.9%	23.8%
ずっと職業を持たず、家事に専念する	2.4%	1.9%	0.0%	0.0%	3.2%	5.4%	0.0%
その他	6.0%	3.5%	3.2%	7.4%	12.9%	4.8%	28.6%
合計人数	635人	259人	31人	121人	31人	166人	21人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・結婚を機に退職、子育てが一段落する頃からパート短期（時短）→長期→正社員
- ・その時の経済状況を考へ女性（妻など）の意見を尊重する
- ・ひとりひとりのスタイルで

（全員、お答えください）

（2）女性の理想の働き方

選択肢	全体		男性	女性	平成23年度 調査
	割合		割合	割合	割合
ずっと働く（勤務条件等を変えない）	15.4%	48.8%	14.9%	15.8%	27.0%
ずっと働く（結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす）	33.4%		30.3%	35.7%	
結婚までは働き、結婚を機に仕事を辞める	4.2%		3.7%	4.5%	6.7%
子どもができるまで働き、出産を機に仕事を辞める	5.8%		6.4%	5.5%	11.9%
子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く	33.8%		36.2%	32.0%	43.0%
ずっと職業を持たず、家事に専念する	0.9%		1.1%	0.8%	3.8%
その他	6.5%		7.4%	5.7%	7.5%
合計人数	891人		376人	512人	1,102人

【年齢別】

選択肢	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
ずっと働く（勤務条件等を変えない）	15.4%	10.7%	12.7%	17.2%	18.9%	14.9%
ずっと働く（結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす）	33.4%	36.9%	35.0%	35.0%	33.5%	29.4%
結婚までは働き、結婚を機に仕事を辞める	4.2%	6.8%	4.5%	5.0%	3.8%	2.6%
子どもができるまで働き、出産を機に仕事を辞める	5.8%	5.8%	7.0%	5.6%	3.3%	7.7%
子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く	33.8%	30.1%	31.8%	27.2%	35.4%	40.0%
ずっと職業を持たず、家事に専念する	0.9%	1.0%	1.3%	1.1%	0.5%	0.9%
その他	6.5%	8.7%	7.6%	8.9%	4.7%	4.7%
合計人数	891人	103人	157人	180人	212人	235人

【働き方別】

選択肢	全体	正社員 正職員	契約 派遣社員	パート アルバイト	自営業	家事専業 無職	その他
ずっと働く（勤務条件等を変えない）	15.4%	20.9%	25.5%	10.2%	7.1%	10.7%	11.9%
ずっと働く（結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす）	33.4%	34.9%	29.4%	34.9%	23.8%	32.9%	31.0%
結婚までは働き、結婚を機に仕事を辞める	4.2%	3.9%	5.9%	3.6%	4.8%	4.9%	2.4%
子どもができるまで働き、出産を機に仕事を辞める	5.8%	3.9%	2.0%	5.4%	7.1%	9.8%	7.1%
子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く	33.8%	29.6%	35.3%	38.0%	38.1%	36.0%	33.3%
ずっと職業を持たず、家事に専念する	0.9%	0.8%	0.0%	0.6%	2.4%	1.3%	0.0%
その他	6.5%	5.9%	2.0%	7.2%	16.7%	4.4%	14.3%
合計人数	891人	358人	51人	166人	42人	225人	42人

■ 「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・子育てを機に、在宅ワークへ転職する
- ・個々人で判断すれば良い。ただ、社会の側は、いずれの選択肢でもサポートできるよう準備は必要
- ・本人の適性によって、選択すればよい
- ・消去法での働き方ではなく自分の状況や考えで働き方を選べる働き方が理想

問11 女性が長く働き続けるためにはどのようなことが特に重要だと思いますか。

あてはまる番号を3つまで選んでください。

「保育サービスの整備の充実」と回答した人が49.4%で最も多く、これに「育児・介護休業制度等の充実」が続いています。

選択肢	全体	男性	女性
	選択率	選択率	選択率
賃金・昇給・昇進・昇格等の男女間の格差解消	33.9%	34.6%	33.4%
育児・介護休業制度等の充実	46.7%	49.5%	44.7%
フレックスタイム・在宅勤務など柔軟な勤務形態の導入	33.7%	32.2%	34.6%
保育サービス（早朝・延長・休日・夜間・病後児・乳児保育等）の整備の充実	49.4%	50.3%	48.8%
介護サービス・施設等の整備の充実	15.7%	10.6%	19.6%
結婚・出産・育児・介護等のために退職した社員の再雇用制度の充実	30.6%	33.2%	28.9%
女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力	34.4%	29.0%	38.7%
女性自身の自覚、意欲・能力の向上	16.8%	18.4%	15.6%
男性の意識の変化	17.5%	17.0%	18.0%
その他	3.7%	4.8%	2.8%
特にない	1.4%	1.1%	1.6%
わからない	1.0%	1.3%	0.8%
合計人数	886人	376人	506人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・育児、出産等では残った社員がフォローしている。市、県職員の様な補充できる体制が必要
- ・男を含めて、残業を前提としない勤務時間に全てすること
- ・地域活動の負担軽減
- ・子連れ出勤可能にする

4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問12 男女ともに仕事と生活を両立できるようにする公的な取り組みとして、あなたが最も重要だと思うものを1つ選んでください。

「出産や育児、介護等に関するサービスの充実」と「両立支援のための制度の強化」と回答した人が、ほぼ並んで多くなっています。

【平成23年度調査との比較】

平成23年度調査でも「出産や育児、介護等に関するサービスの充実」と「両立支援のための制度の強化」と回答した人が、ほぼ並んで多くなっていました。

「社会全体に対する意識づくり」を回答した人は男女ともに増加しました。

選択肢	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合
社会全体に対する意識づくり	21.7%	25.9%	18.8%	15.6%
職場における差別禁止のための制度の強化	7.1%	8.3%	6.2%	3.6%
両立支援のための制度の強化	24.0%	19.5%	26.9%	28.0%
企業、事業所に対する環境整備の働きかけ	14.6%	15.0%	14.4%	11.5%
出産や育児、介護等に関するサービスの充実	24.6%	23.8%	25.3%	27.6%
就職や復職、起業に対する支援	5.2%	4.0%	6.2%	10.6%
その他	2.8%	3.5%	2.2%	3.1%
合計人数	879人	374人	501人	1,213人

【働き方別】

選択肢	全体	正社員 正職員	契約 派遣社員	パート アルバイト	自営業	家事専業 無職	その他
社会全体に対する意識づくり	21.7%	23.1%	22.4%	21.8%	20.5%	18.0%	31.0%
職場における差別禁止のための制度の強化	7.1%	6.5%	10.2%	7.3%	6.8%	6.9%	9.5%
両立支援のための制度の強化	24.0%	24.5%	20.4%	24.2%	15.9%	27.2%	11.9%
企業、事業所に対する環境整備の働きかけ	14.6%	13.2%	14.3%	17.0%	13.6%	13.8%	21.4%
出産や育児、介護等に関するサービスの充実	24.6%	27.0%	16.3%	20.0%	31.8%	27.2%	14.3%
就職や復職、起業に対する支援	5.2%	2.5%	16.3%	6.7%	9.1%	5.5%	2.4%
その他	2.8%	3.1%	0.0%	3.0%	2.3%	1.4%	9.5%
合計人数	879人	355人	49人	165人	44人	217人	42人

【中学生以下の子どもまたは介護が必要な家族の有無別】

選択肢	全体	中学生以下の子どもまたは介護が必要な家族がいる	中学生以下の子どもまたは介護が必要な家族はいない
社会全体に対する意識づくり	21.7%	16.5%	23.4%
職場における差別禁止のための制度の強化	7.1%	4.9%	7.8%
両立支援のための制度の強化	24.0%	29.6%	21.9%
企業、事業所に対する環境整備の働きかけ	14.6%	14.1%	14.8%
出産や育児、介護等に関するサービスの充実	24.6%	29.1%	23.3%
就職や復職、起業に対する支援	5.2%	3.9%	5.7%
その他	2.8%	1.9%	3.1%
合計人数	879人	206人	670人

■ 「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- 「環境整備」等言っても変わらない。女性リーダーをもっと採用すべき
- 中年層の女性の安定した雇用を、国や市がすすめる
- 一人ひとりの働く時間が短縮化されてもまわる仕組み（社会が）や企業や働く場所が地方に分散されること

問13 育児や介護を行うために、育児休業・看護休暇・介護休業・介護休暇を取ったことがありますか。

①から④の項目ごとに1つずつ選んでください。

「①育児休業」「②看護休暇」は女性の取得率が高く、「③介護休業」はほぼ同じ、「④介護休暇」は男性が高くなっています。

①育児休業（原則として、1歳未満の子を養育するための休業）

選択肢	全体	男性	女性
	割合	割合	割合
ある	6.6%	2.2%	9.8%
ない	93.4%	97.8%	90.2%
合計人数	851人	358人	489人

②看護休暇（小学校就業前の子の看護のための休暇）

選択肢	全体	男性	女性
	割合	割合	割合
ある	4.1%	3.4%	4.5%
ない	95.9%	96.6%	95.5%
合計人数	847人	356人	487人

③介護休業（要介護状態にある家族を介護するための休業）

選択肢	全体	男性	女性
	割合	割合	割合
ある	1.9%	1.9%	1.8%
ない	98.1%	98.1%	98.2%
合計人数	851人	360人	487人

④介護休暇（要介護状態にある家族を短期に介護するための休暇）

選択肢	全体	男性	女性
	割合	割合	割合
ある	2.8%	4.2%	1.9%
ない	97.2%	95.8%	98.1%
合計人数	849人	359人	486人

5 男性中心型労働慣行の是正について

問14 男性が育児休業や介護休業などを取ることにについて、あなたの考えに最も近いものを、①～④の項目ごとに1つずつ選んでください。

「積極的に取るべき」「どちらかといえば取る方がよい」の合計は、「④介護休暇」が91.6%と最も高く、これに「②看護休暇」90.6%、「③介護休業」86.0%、「①育児休業」81.9%が続いています。

【平成23年度調査との比較】

「積極的に取るべき」「どちらかといえば取る方がよい」の合計は、平成23年度調査の「①育児休業」84.0%、「③介護休業」91.7%より低い結果となりました。

(※「②看護休暇」「④介護休暇」は前回調査せず)

①育児休業

選択肢	全体		男性	女性	平成23年度調査	
	割合		割合	割合	割合	
積極的に取るべき	35.4%	81.9%	31.3%	38.3%	43.8%	84.0%
どちらかといえば、取る方がよい	46.5%		47.6%	45.7%	40.2%	
どちらかといえば、取らない方がよい	15.1%	18.2%	17.1%	13.6%	13.1%	15.9%
取るべきではない	3.1%		4.0%	2.4%	2.8%	
合計人数	882人		374人	506人	1,211人	

②看護休暇

選択肢	全体		男性	女性
	割合		割合	割合
積極的に取るべき	40.2%	90.6%	38.9%	41.3%
どちらかといえば、取る方がよい	50.4%		50.9%	49.8%
どちらかといえば、取らない方がよい	8.4%	9.4%	8.6%	8.3%
取るべきではない	1.0%		1.6%	0.6%
合計人数	881人		373人	506人

③介護休業

選択肢	全体		男性	女性	平成23年度調査	
	割合		割合	割合	割合	
積極的に取るべき	38.8%	86.0%	37.1%	40.2%	50.2%	91.7%
どちらかといえば、取る方がよい	47.2%		46.0%	47.8%	41.5%	
どちらかといえば、取らない方がよい	12.4%	14.1%	14.0%	11.2%	6.7%	8.2%
取るべきではない	1.7%		3.0%	0.8%	1.5%	
合計人数	882人		372人	508人	509人	

④介護休暇

選択肢	全体		男性	女性
	割合		割合	割合
積極的に取るべき	46.8%	91.6%	45.6%	47.9%
どちらかといえば、取る方がよい	44.8%		43.7%	45.4%
どちらかといえば、取らない方がよい	7.4%	8.4%	9.1%	6.1%
取るべきではない	1.0%		1.6%	0.6%
合計人数	884人		373人	373人

問15 育児休業や介護休業を取る男性は、女性に比べて少ないのが現状です。その理由について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

「職場の理解を得られないから」と回答した人が最も多く、これに「休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから」が続いています。

【平成23年度調査との比較】

平成23年度調査でも「職場の理解を得られないから」と回答した人が最も多く32.8%でした。

選択肢	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合
職場の理解を得られないから	30.5%	25.3%	34.2%	32.8%
職場の同僚に申し訳ないと思うから	11.5%	12.6%	10.6%	8.7%
昇進や昇給に影響する恐れがあるから	9.1%	8.3%	9.8%	7.5%
休業後の職場復帰に不安があるから	12.1%	11.8%	12.1%	11.6%
仕事の量が多いから	4.0%	7.0%	1.8%	2.4%
仕事の責任が重いから	7.6%	10.8%	5.3%	7.9%
休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから	19.1%	16.9%	20.7%	21.8%
女性の方が育児や介護に向いているから	2.5%	2.4%	2.5%	3.9%
その他	3.7%	4.8%	2.9%	3.3%
合計人数	886人	372人	511人	1,191人

【働き方別】

全体	全体	正社員 正職員	契約 派遣社員	パート アルバイト	自営業	家事専業 無職	その他
職場の理解を得られないから	30.5%	32.0%	32.0%	34.9%	27.9%	24.8%	28.6%
職場の同僚に申し訳ないと思うから	11.5%	11.8%	12.0%	8.4%	9.3%	13.5%	11.9%
昇進や昇給に影響する恐れがあるから	9.1%	9.3%	14.0%	9.0%	9.3%	8.1%	9.5%
休業後の職場復帰に不安があるから	12.1%	7.9%	16.0%	11.4%	14.0%	17.6%	14.3%
仕事の量が多いから	4.0%	5.9%	0.0%	1.8%	0.0%	4.1%	4.8%
仕事の責任が重いから	7.6%	8.1%	2.0%	6.6%	16.3%	7.7%	4.8%
休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから	19.1%	18.5%	20.0%	21.1%	20.9%	18.9%	11.9%
女性の方が育児や介護に向いているから	2.5%	2.2%	2.0%	2.4%	2.3%	3.2%	2.4%
その他	3.7%	4.2%	2.0%	4.2%	0.0%	2.3%	11.9%
合計人数	886人	356人	50人	166人	43人	222人	42人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・育児休業や介護休業を取る考えが元々ないから
- ・仕事の量・質が属人的に決っており、代替可能なように定形化されてないため
- ・社会全体がそういう雰囲気ではないから
- ・男性に、育児という困難をやりとげる根性が足りないのでは？

問16 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくために、最も必要だと思うものを1つ選んでください。

「労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間を多く持てるようにする」と回答した人が33.6%で最も多く、これに「職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる」が続いています。

選択肢	全体	男性	女性
	割合	割合	割合
職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる	25.3%	25.2%	25.0%
労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間を多く持てるようにする	33.6%	34.2%	33.3%
男性自身の家庭生活や地域活動に参加することに対する抵抗感をなくす	13.0%	13.3%	12.8%
社会の中で、男性が家庭生活や地域活動に参加することに対する評価を高める	14.7%	12.5%	16.4%
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る	9.7%	9.8%	9.7%
男性は積極的に参加する必要はない	1.0%	1.3%	0.8%
その他	2.8%	3.7%	2.0%
合計人数	887人	377人	507人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・個人の意志が重要
- ・男性が小さいうちから、家庭のことをやるのはあたりまえ、地域活動に自ら進んで参加するように、と教える。学校でも家庭でも、社会で教えていく。
- ・地域活動の質を高める

6 女性の人権について（DV、セクハラなど）

問17 「女性の人権が侵害されている」とあなたが感じるのはどのような場合ですか。

あてはまるものをすべて選んでください。

「レイプ」と回答した人が70.0%と最も多く、これに「痴漢」「職場や学校、地域でのセクハラ」が続いています。「買春・売春・援助交際」では12.1ポイント、「家事負担が女性にかたよっていること」では13.1ポイント選択率が男性よりも女性の方が高くなっています。

【平成23年度調査との比較】

1位「レイプ」、2位「痴漢」と続く選択率の順位はほぼ同じですが、「ストーカー行為」以外の全ての項目においては、平成23年度調査より選択率が低い結果となりました。

選択肢	全体	男性	女性	平成23年度調査
	選択率	選択率	選択率	選択率
買春・売春・援助交際	33.4%	26.5%	38.6%	41.1%
性風俗店	22.1%	17.0%	25.9%	30.7%
ストーカー行為	46.9%	48.6%	45.6%	45.5%
夫や恋人からの暴力	57.4%	55.7%	59.0%	59.5%
レイプ	70.0%	65.9%	73.3%	74.8%
痴漢	62.0%	57.6%	65.3%	68.3%
雑誌や広告のヌード写真	10.6%	8.6%	12.0%	17.9%
職場や学校、地域でのセクハラ	59.2%	56.2%	62.0%	62.4%
ミス・コンテスト	4.0%	3.8%	4.2%	5.1%
職場での男性との待遇の差	42.8%	38.9%	45.8%	48.8%
家事負担が女性にかたよっていること	27.5%	20.0%	33.1%	44.9%
「婦人」「未亡人」「女流」など女性にだけ用いられる言葉	8.4%	7.3%	9.2%	14.1%
その他	3.4%	2.7%	3.8%	7.0%
合計人数	876人	370人	502人	1,192人

■ 「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・子どもを産む道具とみなされること
- ・社会的な意志決定の場に女性が圧倒的に少ないこと
- ・男性優位の考え方
- ・夫婦別姓が認められていない

問18 最近5年以内に、職場や学校、地域などで、①から⑧の行為をされてあなた自身が不快な思いをした、または家族や友人で不快な思いをした人を知っていますか。
それぞれ1つずつ選んでください。

「ある」と回答した人は「⑥年齢や容姿のことで不愉快な意見や冗談を言われた」が最も多く、これに「⑧性的な冗談や会話につきあわされた」「⑦異性との交際関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた」が続いています。

【平成23年度調査・第4次プランの目標値との比較】

「ある」と回答した人（男女合計）は平成23年度調査から①～⑧の全項目で微減しました。

「⑧性的な冗談や会話につきあわされた」を「ある」と回答した男性は21.4%から17.0%へ、女性は25.0%から24.9%へと回答割合が下がりましたが、第4次プランの目標値（男性10%、女性16%）は達成できませんでした。

①不必要に体を触られた

選択肢	全体	男性	女性	平成23年度調査		
				全体	男性	女性
	割合	割合	割合	割合	割合	割合
ある（知っている）	14.9%	8.2%	19.9%	18.6%	15.2%	21.0%
ない（知らない）	85.1%	91.8%	80.1%	81.4%	84.8%	79.0%
合計人数	867人	365人	498人	1,166人	474人	691人

②交際や性的関係を迫られた

選択肢	全体	男性	女性	平成23年度調査		
				全体	男性	女性
	割合	割合	割合	割合	割合	割合
ある（知っている）	9.0%	6.3%	11.1%	10.0%	9.7%	10.3%
ない（知らない）	91.0%	93.7%	88.9%	90.0%	90.3%	89.7%
合計人数	866人	365人	497人	1,166人	473人	692人

③交際や性的関係を拒否した人から不当な扱いや嫌がらせをされた

選択肢	全体	男性	女性	平成23年度調査		
				全体	男性	女性
	割合	割合	割合	割合	割合	割合
ある（知っている）	6.5%	5.5%	7.2%	6.6%	7.0%	6.4%
ない（知らない）	93.5%	94.5%	92.8%	93.4%	93.0%	93.6%
合計人数	866人	365人	497人	1,162人	472人	689人

④宴会でお酌やデュエットを強要された

選択肢	全体	男性	女性	平成23年度調査		
				全体	男性	女性
	割合	割合	割合	割合	割合	割合
ある（知っている）	13.3%	10.2%	15.7%	17.2%	16.6%	17.6%
ない（知らない）	86.7%	89.8%	84.3%	82.8%	83.4%	82.4%
合計人数	865人	364人	497人	1,161人	471人	689人

⑤性的なうわさを流された

選択肢	全体	男性	女性	平成 23 年度調査		
				全体	男性	女性
	割合	割合	割合	割合	割合	割合
ある（知っている）	5.3%	5.8%	5.1%	9.2%	10.2%	8.6%
ない（知らない）	94.7%	94.2%	94.9%	90.8%	89.8%	91.4%
合計人数	863 人	365 人	494 人	1,161 人	471 人	689 人

⑥年齢や容姿のことで不愉快な意見や冗談を言われた

選択肢	全体	男性	女性	平成 23 年度調査		
				全体	男性	女性
	割合	割合	割合	割合	割合	割合
ある（知っている）	30.9%	22.5%	37.1%	32.2%	26.3%	36.1%
ない（知らない）	69.1%	77.5%	62.9%	67.8%	73.7%	63.9%
合計人数	866 人	364 人	498 人	1,161 人	471 人	689 人

⑦異性との交際関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた

選択肢	全体	男性	女性	平成 23 年度調査		
				全体	男性	女性
	割合	割合	割合	割合	割合	割合
ある（知っている）	19.5%	13.5%	24.0%	19.8%	17.4%	21.5%
ない（知らない）	80.5%	86.5%	76.0%	80.2%	82.6%	78.5%
合計人数	863 人	363 人	496 人	1,162 人	472 人	689 人

⑧性的な冗談や会話につきあわされた

選択肢	全体	男性	女性	平成 23 年度調査		
				全体	男性	女性
	割合	割合	割合	割合	割合	割合
ある（知っている）	21.5%	17.0%	24.9%	23.6%	21.4%	25.0%
ない（知らない）	78.5%	83.0%	75.1%	76.4%	78.6%	75.0%
合計人数	867 人	365 人	498 人	1,162 人	472 人	689 人

問19 セクハラをなくすためにはどのような取り組みが必要だと思いますか。

あなたが最も重要だと思うものを1つ選んでください。

「セクハラは人権侵害だという社会意識づくり」と回答した人が47.3%で最も多く、これに「セクハラを禁止する法律や条例などの強化」が続いています。

【平成23年度調査との比較】

回答割合の多かった選択肢の傾向は、平成23年度調査とほぼ変わりませんでした。

選択肢	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合
公的機関の相談や指導の強化	10.1%	12.1%	8.7%	8.8%
民間ボランティア団体等のチェックや相談	1.5%	1.9%	1.2%	1.8%
事業所内でのチェックや相談	12.1%	13.2%	11.3%	9.1%
セクハラを禁止する法律や条例などの強化	23.7%	21.2%	25.6%	25.3%
セクハラは人権侵害だという社会意識づくり	47.3%	45.4%	48.3%	48.7%
その他	5.3%	6.2%	4.8%	6.4%
合計人数	879人	372人	503人	1,198人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・教育に性教育と一緒にモラハラやセクハラなど“ハラスメント”ということを学校から教えていくべき
- ・組織の中で申告しやすい環境づくり

問20 配偶者や恋人など親しい間柄における暴力は、一般社会における暴力と同様の加害行為であると思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

「思う」「まあまあ思う」を合計した回答が92.7%となっています。

【平成23年度調査・第4次プランの目標値との比較】

「思う」「まあまあ思う」を合計した回答は、平成23年度調査の93.5%から微減となり、第4次プランの目標値100%は達成できませんでした。

選択肢	全体		男性	女性	平成23年度調査	
	割合	割合	割合	割合	割合	割合
思う	76.5%	92.7%	74.9%	77.6%	78.0%	93.5%
まあまあ思う	16.2%		16.6%	16.0%	15.5%	
あまり思わない	4.6%	7.3%	5.6%	3.9%	4.2%	6.5%
思わない	2.7%		2.9%	2.5%	2.3%	
合計人数	891人		374人	514人	1,207人	

問21 配偶者からの暴力について相談できる場所として、以下の機関を知っていますか。

あてはまるものをすべて選んでください。

「警察」と回答した人が81.5%で最も多く、これに「市役所」が37.2%と続いています。

【平成23年度調査との比較】

「市役所」との回答は平成23年度調査から微減しており、DV相談機関として市の認知度は現状でも低い結果（女性の認知度は34.1%）になりました。

【第4次プランの目標値との比較】

DVに関して「相談できる機関を知らない」の回答割合を下げる（目標）

	平成23年度調査	目標値	今回調査
全体	13.0%	8.0%	18.1%
男性	8.1%	8.0%	13.6%
女性	16.4%	8.0%	21.3%

今回調査では、目標値を下回る結果となりました。

選択肢	全体	男性	女性	平成23年度調査		
				全体	男性	女性
				選択率	選択率	選択率
警察	81.5%	86.1%	78.3%	82.6%	86.9%	79.7%
市役所	37.2%	41.4%	34.1%	38.4%	41.2%	36.4%
配偶者暴力相談支援センター	16.0%	16.3%	15.9%	28.0%	27.7%	28.2%
かながわ男女共同参画センター	6.1%	7.2%	5.3%	—	—	—
民間支援団体	20.5%	21.1%	20.2%	27.0%	28.5%	26.0%
法務局（人権擁護委員）	6.5%	9.4%	4.3%	16.6%	23.0%	12.1%
相談できる機関を知らない	18.1%	13.6%	21.3%	13.0%	8.1%	16.4%
合計人数	888人	374人	511人	1,204人	495人	708人

問22 DVに対する対策や支援として特に重要だと思う取り組みはなんだと思いますか。

あてはまるものを3つまで選んでください。

「いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備」と回答した人が51.5%でもっとも多く、これに「家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発」「加害者に対する厳正な対処」が続いています。「住居や就労斡旋、経済的援助など、生活支援の充実」では、選択率が女性は男性よりも17ポイント高くなっています。

選択肢	全体	男性	女性
	選択率	選択率	選択率
家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発	47.1%	48.9%	45.9%
いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備	51.5%	53.5%	50.2%
緊急時の相談体制の充実	30.6%	33.8%	28.3%
住居や就労斡旋、経済的援助など、生活支援の充実	25.4%	15.4%	32.4%
カウンセリングや日常的な相談など、精神的援助の充実	22.8%	22.7%	23.0%
関係機関やスタッフの充実	7.9%	10.3%	6.3%
関係機関や紹介や暴力への対応方法など、さまざまな情報の提供	19.7%	18.9%	20.3%
離婚調停への支援など、法的なサポートの充実	11.5%	7.0%	14.6%
加害者に対する厳正な対処	43.8%	46.2%	42.0%
カウンセリングなど、加害者の更生に関する対策の充実	10.8%	10.5%	11.1%
裁判所、病院、住居探し等への同行支援	8.8%	8.6%	9.0%
その他	2.3%	3.2%	1.4%
わからない	2.1%	2.2%	2.1%
合計人数	885人	370人	512人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・地域の問題でもあると認識する風潮づくり
- ・周囲（友人、同僚、親族など）のサポートと協力意識作り
- ・人はなぜDVをするのか。学問的な研究が必要だと思います。医学的だけでなく、様々な角度から。
- ・どういう状態、状況がDVにあたるのかという知識が一般的に広まること

7 性的マイノリティについて

問23 あなたは性的マイノリティ（またはLGBT）という言葉を知っていますか。

「はい（知っている）」と回答した人が65.8%でした。

同時期に実施した市内高校生を対象としたアンケートでは、「はい（知っている）」と回答した人が25.5%でした。

選択肢	全体	男性	女性
	割合	割合	割合
はい	65.8%	63.6%	67.3%
いいえ	34.2%	36.4%	32.7%
合計人数	882人	371人	507人

問24 あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向（同性愛など）に悩んだことがありますか。

「はい（悩んだことがある）」とした回答した人が3.1%でした。

同時期に実施した市内高校生を対象としたアンケートでは、「はい（悩んだことがある）」と回答した人が10.6%でした。

選択肢	全体	男性	女性
	割合	割合	割合
はい	3.1%	2.7%	3.3%
いいえ	96.9%	97.3%	96.7%
合計人数	884人	372人	508人

問25 現在、性的マイノリティ（またはLGBT）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いませんか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

「思う」「どちらかと言えば思う」を合計した回答が77.5%となっています。

選択肢	全体		男性	女性
	割合		割合	割合
思う	30.0%	77.5%	27.4%	31.7%
どちらかと言えば思う	47.5%		43.6%	50.4%
どちらかと言えば思わない	14.9%	22.4%	15.7%	14.5%
思わない	7.5%		13.3%	3.4%
合計人数	877人		369人	504人

(問25で「1 思う」「2 どちらかと言えば思う」と回答した方だけお答えください)

問26 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。
あてはまるものを2つまで選んでください。

「法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」とした回答した人が37.4%で最も多く、これに「生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う」が続いています。

選択肢	全体	男性	女性
	選択率	選択率	選択率
行政が市民等への周知啓発を行う	18.3%	25.1%	14.1%
相談窓口等を充実させ、その存在を周知する	21.8%	20.8%	22.7%
生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う	35.2%	30.9%	38.0%
法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する	37.4%	40.5%	35.6%
当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う	12.3%	14.7%	11.0%
働きやすい職場環境づくりの取り組みをする	31.4%	25.1%	35.4%
わからない	13.7%	13.5%	13.7%
その他	5.3%	5.4%	5.1%
合計人数	673人	259人	410人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- 行政が認めていく事が不可欠（結婚の権利など）
- 性教育（小～高等学校）カリキュラムの追加
- 人権教育に反映させる

8 男女共同参画推進のために必要な取り組みについて

問27 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを①から④の項目ごとに選んでください。

「①個人で心掛けること」では、「男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ」と回答した人が32.9%で最も多くなっています。

「②家庭での取り組み」では、「家事、育児、介護は男女を問わず分担し、協力する」と回答した人が45.5%で最も多くなっています。

「夫婦の関係が対等であるように努力する」と回答した男性は、女性より16.6ポイント高く、「家事、育児、介護は男女問わず分担し、協力する」と回答した女性は、男性より10.8ポイント高くなっています。

「③社会全体の取り組み」では、「性別に関わらず自分の人生を決められるよう、偏見や先入観を排除する」と回答した人が47.2%で最も多くなっています。

「④横須賀市における取り組み」では、「事業所に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける」と回答した人が37.5%で最も多くなっています。

【平成23年度調査との比較】

一番多く回答があった選択肢は①から④までの各項目とも同じで、全体的な傾向もほぼ同様でした。

①個人で心掛けること（1つ）

選択肢	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合
「男らしく」「女らしく」ということにとらわれず、「自分らしく」行動する	30.3%	29.6%	30.8%	23.2%
男女ともに独立した人格としての自覚と責任意識を高める	23.8%	21.4%	25.6%	27.6%
性別に関する偏見や先入観を持たないように心掛ける	11.1%	12.0%	10.5%	9.3%
男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ	32.9%	35.0%	31.4%	37.6%
その他	1.9%	2.0%	1.6%	2.3%
合計人数	857人	351人	503人	1,215人

【年齢別】

選択肢	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
「男らしく」「女らしく」ということにとらわれず、「自分らしく」行動する	30.3%	45.5%	36.0%	27.5%	27.4%	23.8%
男女ともに独立した人格としての自覚と責任意識を高める	23.8%	15.8%	29.3%	21.6%	23.1%	26.5%
性別に関する偏見や先入観を持たないように心掛ける	11.1%	11.9%	10.7%	18.7%	6.7%	9.4%
男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ	32.9%	24.8%	21.3%	29.2%	40.4%	40.4%
その他	1.9%	2.0%	2.7%	2.9%	2.4%	0.0%
合計人数	857人	101人	150人	171人	208人	223人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・女性自身が積極的に参加する意識が重要
- ・男女の違いを知り、それぞれの良い所を理解する
- ・全てが対等というのは限界があると思う。男女が協力し合う気持ちと環境づくり

②家庭での取り組み（1つ）

選択肢	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合
夫婦の関係が対等であるように努力する	25.1%	34.9%	18.3%	20.4%
家事、育児、介護は男女を問わず分担し、協力する	45.5%	39.1%	49.9%	49.4%
家事や育児の重要性を正當に評価する	14.1%	14.0%	14.3%	14.9%
「嫁・姑」「後継ぎ」「墓」「氏」など、家系を中心にした家族観や慣習を改める	7.3%	5.7%	8.5%	4.9%
子育てにおいて、性別によって教育やしつけの方針、態度を区別しない	4.9%	2.9%	6.4%	5.5%
その他	3.1%	3.4%	2.6%	4.9%
合計人数	850人	350人	497人	1,208人

【年齢別】

選択肢	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
夫婦の関係が対等であるように努力する	25.1%	18.0%	18.1%	24.3%	33.0%	25.8%
家事、育児、介護は男女を問わず分担し、協力する	45.5%	53.0%	47.0%	39.9%	39.9%	50.7%
家事や育児の重要性を正當に評価する	14.1%	16.0%	14.8%	15.6%	13.8%	12.2%
「嫁・姑」「後継ぎ」「墓」「氏」など、家系を中心にした家族観や慣習を改める	7.3%	8.0%	8.1%	11.0%	5.4%	5.4%
子育てにおいて、性別によって教育やしつけの方針、態度を区別しない	4.9%	5.0%	5.4%	5.2%	4.9%	4.5%
その他	3.1%	0.0%	6.7%	4.0%	3.0%	1.4%
合計人数	850人	100人	149人	173人	203人	221人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・コミュニケーションをしっかりとる
- ・夫婦間で自分のライフワークバランスと体力などと照らし合せて話し合いシェアするべきだと思う。何でも分担でなく相手の立場に立って考える
- ・それぞれできる事をする。特技をいかす

③社会全体での取り組み（1つ）

選択肢	全体	男性	女性	平成23年度調査
	割合	割合	割合	割合
性別を理由にした差別的待遇を禁止・撤廃する法律を強化する	14.5%	18.9%	11.5%	13.1%
性別に関わらず自分の人生を決められるよう、偏見や先入観を排除する	47.2%	43.7%	49.9%	38.7%
テレビや新聞、雑誌などで性別による固定的な役割分担に基づいた男女の扱いをしない	9.9%	9.3%	10.2%	6.2%
性的な興味の対象として、人を扱わない	3.9%	2.3%	5.1%	2.2%
社会活動や政治に、女性がより参画できるような仕組みを作る	11.6%	13.0%	10.6%	11.4%
社会活動や政治に女性を積極的に登用し、発言力を高める	9.3%	9.6%	9.2%	10.2%
その他	3.5%	3.4%	3.5%	6.8%
合計人数	847人	355人	489人	1,203人

【年齢別】

選択肢	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
性別を理由にした差別的待遇を禁止・撤廃する法律を強化する	14.5%	14.3%	16.8%	12.1%	17.8%	12.2%
性別に関わらず自分の人生を決められるよう、偏見や先入観を排除する	47.2%	55.1%	45.6%	48.6%	44.1%	46.6%
テレビや新聞、雑誌などで性別による固定的な役割分担に基づいた男女の扱いをしない	9.9%	9.2%	12.8%	8.1%	9.9%	9.5%
性的な興味の対象として、人を扱わない	3.9%	9.2%	2.7%	4.0%	3.0%	3.2%
社会活動や政治に、女性がより参画できるような仕組みを作る	11.6%	4.1%	8.7%	15.0%	11.4%	14.5%
社会活動や政治に女性を積極的に登用し、発言力を高める	9.3%	7.1%	10.1%	5.8%	10.4%	11.8%
その他	3.5%	1.0%	3.4%	6.4%	3.5%	2.3%
合計人数	847人	98人	149人	173人	202人	221人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・男女平等でも身体的な事は違う
- ・相手を思いやる心を育む環境を学生の頃からおこなう
- ・性別にこだわり過ぎない
- ・男女共に経済的・独立できる賃金を出せる事

④横須賀市における取り組み（2つ）

選択肢	全体	男性	女性	平成23年度調査
	選択率	選択率	選択率	選択率
学校教育における男女共同参画教育を進める	21.9%	22.6%	21.6%	13.9%
男女共同参画の意識を高めるための情報提供(冊子など)や学習の場(講座など)を充実する	9.0%	10.6%	7.8%	7.4%
事業所に対して職場における男女格差の是正を働きかける	11.4%	11.5%	11.5%	8.3%
事業所に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける	37.5%	34.9%	39.6%	43.1%
多様な保育サービスを充実する	21.3%	24.3%	19.1%	24.9%
介護施設、介護サービスを充実する	26.2%	21.8%	29.6%	30.7%
女性を対象とした各種相談やDV被害から救済するための体制を充実する	3.7%	3.4%	3.9%	3.3%
ひとり親世帯の生活を安定させるための支援を充実する	7.7%	7.5%	7.6%	11.3%
男性も女性も地域で活動し、地域とのつながりをつくれるように支援する	9.8%	10.1%	9.7%	9.5%
夫婦がともに参加できる家事・育児や介護に関する学習の場(講座など)を充実する	5.3%	5.3%	5.1%	5.5%
市役所の責任ある立場に女性を積極的に登用する	5.3%	7.5%	3.7%	4.5%
市の施策に関する審議等を行う場に女性の参画を進める	2.0%	1.4%	2.5%	3.1%
市役所が率先して模範となることで、男女共同参画の職場づくりを働きかける	10.3%	11.7%	9.2%	8.3%
女性の能力・技術を高め、チャレンジをうながすための支援を充実する	8.0%	5.0%	10.1%	9.2%
性別に関する人権侵害をチェックし、是正するための制度を充実する	4.5%	5.6%	3.7%	3.9%
男女共同参画推進を目的とした市民活動を支援する	4.0%	4.5%	3.7%	5.5%
その他	3.5%	4.2%	2.9%	4.3%
合計人数	848人	358人	487人	1,198人

【年齢別】

選択肢	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
学校教育における男女共同参画教育を進める	21.9%	20.6%	23.4%	22.0%	21.5%	22.4%
男女共同参画の意識を高めるための情報提供(冊子など)や学習の場(講座など)を充実する	9.0%	6.2%	3.4%	8.1%	12.0%	11.8%
事業所に対して職場における男女格差の是正を働きかける	11.4%	6.2%	11.7%	13.9%	13.0%	10.5%
事業所に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける	37.5%	36.1%	48.3%	31.8%	36.0%	37.7%
多様な保育サービスを充実する	21.3%	32.0%	32.4%	20.2%	18.5%	12.7%
介護施設、介護サービスを充実する	26.2%	19.6%	15.9%	27.2%	32.0%	30.3%
女性を対象とした各種相談やDV被害から救済するための体制を充実する	3.7%	7.2%	2.8%	3.5%	4.0%	2.6%
ひとり親世帯の生活を安定させるための支援を充実する	7.7%	11.3%	7.6%	8.1%	5.5%	7.5%
男性も女性も地域で活動し、地域とのつながりをつくれるように支援する	9.8%	13.4%	11.0%	7.5%	7.5%	11.4%
夫婦がともに参加できる家事・育児や介護に関する学習の場(講座など)を充実する	5.3%	9.3%	4.8%	2.9%	4.0%	6.6%
市役所の責任ある立場に女性を積極的に登用する	5.3%	3.1%	3.4%	5.8%	5.0%	7.0%
市の施策に関する審議等を行う場に女性の参画を進める	2.0%	0.0%	2.1%	2.3%	2.0%	2.6%
市役所が率先して模範となることで、男女共同参画の職場づくりを働きかける	10.3%	8.2%	8.3%	9.2%	13.0%	10.5%
女性の能力・技術を高め、チャレンジをうながすための支援を充実する	8.0%	11.3%	8.3%	11.6%	6.0%	5.3%
性別に関する人権侵害をチェックし、是正するための制度を充実する	4.5%	3.1%	3.4%	5.8%	4.5%	4.8%
男女共同参画推進を目的として市民活動を支援する	4.0%	3.1%	1.4%	1.7%	5.0%	7.0%
その他	3.5%	1.0%	2.1%	7.5%	2.5%	3.5%
合計人数	848人	97人	145人	173人	200人	228人

【働き方別】

選択肢	全体	正社員 正職員	契約 派遣社員	パート アルバイト	自営業	家事専業 無職	その他
学校教育における男女共同参画教育を進める	21.9%	19.9%	15.4%	17.1%	18.2%	26.0%	20.9%
男女共同参画の意識を高めるための情報提供(冊子など)や学習の場(講座など)を充実する	9.0%	8.0%	7.7%	7.1%	11.4%	8.7%	14.0%
事業所に対して職場における男女格差の是正を働きかける	11.4%	13.0%	17.3%	7.6%	4.5%	10.0%	2.3%
事業所に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける	37.5%	30.4%	42.3%	45.3%	27.3%	37.2%	23.3%
多様な保育サービスを充実する	21.3%	26.2%	19.2%	16.5%	18.2%	14.7%	11.6%
介護施設、介護サービスを充実する	26.2%	24.0%	15.4%	26.5%	22.7%	26.0%	23.3%
女性を対象とした各種相談やDV被害から救済するための体制を充実する	3.7%	4.4%	0.0%	4.1%	6.8%	1.7%	2.3%
ひとり親世帯の生活を安定させるための支援を充実する	7.7%	7.2%	17.3%	7.6%	2.3%	5.6%	4.7%
男性も女性も地域で活動し、地域とのつながりをつくれるように支援する	9.8%	6.6%	11.5%	6.5%	13.6%	12.1%	16.3%
夫婦がともに参加できる家事・育児や介護に関する学習の場(講座など)を充実する	5.3%	3.9%	3.8%	3.5%	4.5%	7.4%	7.0%
市役所の責任ある立場に女性を積極的に登用する	5.3%	5.2%	5.8%	3.5%	4.5%	4.3%	11.6%
市の施策に関する審議等を行う場に女性の参画を進める	2.0%	2.5%	0.0%	1.8%	4.5%	1.3%	0.0%
市役所が率先して模範となることで、男女共同参画の職場づくりを働きかける	10.3%	9.4%	5.8%	11.2%	13.6%	10.0%	4.7%
女性の能力・技術を高め、チャレンジをうながすための支援を充実する	8.0%	7.5%	13.5%	8.8%	4.5%	4.8%	9.3%
性別に関する人権侵害をチェックし、是正するための制度を充実する	4.5%	3.9%	5.8%	4.1%	2.3%	4.3%	7.0%
男女共同参画推進を目的とした市民活動を支援する	4.0%	4.1%	1.9%	1.2%	6.8%	4.8%	4.7%
その他	3.5%	2.8%	1.9%	2.4%	4.5%	3.0%	11.6%
合計人数	848人	362人	52人	170人	44人	231人	43人

■ 「その他」への記入事項(特徴的なもの)

- ・入札時の価格以外の評価として、男女共同参画の実施状況を入れる
- ・結婚して家庭に入った30歳代、40歳代の女性たちを正規職員として市が雇用することが大切だとおもいます
- ・男女にとらわれず、市民が生き生きと生活できる政策、施策を実施して下さい

9 自由意見

自由意見に記入があった回答者は179人で全体の19.7%でした。
「男女平等、男女共同参画」に関する意見が一番多くなっています。

(1) 男女平等・男女共同参画

<特徴的な意見>

- ・出産・子育ては女性の重要な仕事で、その上、男性と同じように働くことを求めると、女性自身が、負担が重くなる。あまり、無理をしない男女共同参画が望ましいと思う。(1 - 4)※
- ・制度だけ整えても人には伝わらないと思う。より現実的な情報や教育、周知を進めていくべき。(1 - 5)
- ・女性が職場で活躍する機会は増えたと思えますが、逆に男性が家事・育児・介護をするのはまだまだ出来てないと感じる。(1 - 9)
- ・公的な機関を頼ることも大事ですが個々の意識改革、個人の取り組み方がとても大切だと思う。(1 - 9)

(2) 社会全体

<特徴的な意見>

- ・男女という性別の枠にとらわれず、1人の人として相手を見る事ができれば、「男女共同参画」も進んでいくと思う。「国籍」「人種」といった考えと同じだと思う。(2 - 2)
- ・女性の地位向上ということより、男女ともに希望する道を歩めるようにすることが大切だと思う。(2 - 2)

(3) 子育て、介護、教育

<特徴的な意見>

- ・一般企業などは育児中（介護中）の女性に対する働く環境整備、意識改革がまだまだ遅れていると思う。行政からの啓発、指導などの充実が必要かと思う。(3 - 1)
- ・病中病後の（子ども、介護）のサービスがないと思う。一方、働き方や子育てに対する考えの教育も必要だと思う。(3 - 4)

(4) 仕事

<特徴的な意見>

- ・大手企業などは労働条件などが、優遇されているが中小企業などはまだまだ改善されてません。色々、難しいとは思いますが、行政などが中心となり、変えて行く事が大事だと思う。(4 - 1)
- ・仕事がもう少し忙しくなくなれば男性も余裕が出て家庭に目を向けたり、優しくなるのではないかと思う。月に2回しか休みがなく午前様に帰宅するような労働環境をまずどうにかして欲しい。(4 - 1)
- ・仕事と育児のバランスにより職場での男女の格差が目立つように思う。(4 - 2)
- ・子育ての後に、復職、就職できる機会が増えれば、（正社員として）より平等になるのではないか。
(4 - 2)

(5) 女性の人権と暴力（DV、セクハラなど）、性的マイノリティ

<特徴的な意見>

- ・仕事場等、その時、その場にはいないと分からないセクハラが沢山あり女だからと、がまんする事が多かったのですが、少しでも人として尊重される事が増えると良いと思う。(5 - 1)
- ・男性、女性、LGBTであることが素敵なことだと認め合った上での共同参画を推進して欲しいと思う。
(5 - 3)
- ・DVやLGBTは男女共同参画とは分けて議論した方が良い（すべき）と思う。(5 - 4)

(6) 行政の役割

<特徴的な意見>

- ・市が、これから本格的に取り組んでいくのであれば、広報よこすかの一面もしくは、裏一面に大段的に載せて、市の取り組み姿勢などを説明報告し市民の方から、意見等を聞く窓口などを設けてはどうか。(6 - 1)
- ・普及には多くの時間と世代交代が必要と思う。しかし、横須賀市の規模ですと、(入札改革を先行した市でもあり) 男女共同参画の実現度合を入札に反映することは、ニュース性もあり、それなりのインパクトを与えるのではないかと。(6 - 3)

(7) その他

<特徴的な意見>

- ・アンケート内の選択項目が「育児」と「介護」を別にしたら意味がないのでは。育児しながら介護している人もいる。そのほとんどは女性がしていることを改めて考えながらの男女共同参画を進める必要がある。男性が働きづめなのもどうかと思う。積極的に育児に参加したくても休めないという現実や、家事・育児・介護を通して学んだことを社会にいかせない現実等、色々な目線で男女共同参加を進めてほしい。(7 - 1)
- ・横須賀市に限った意見であるが、①市職員数を男・女同数程度にする必要がある。②市議会議員を男女同数程度になるよう努力する必要がある。(7 - 2)

※文尾の数字は p 49 の自由意見分類表の番号に対応しています。また、p 47～48 では、自由意見の中から、特徴的な意見を抜粋して記載しています。

○自由意見分類表

大分類	番号	中分類	回答数	構成比
1 男女平等・男女共同参画	1-1	性別によって差異がある、または役割が違うから疑問を感じる。	11	5.6%
	1-2	男女差、個性を活かした推進が必要	6	3.0%
	1-3	男女共同参画は積極的に推進すべき	7	3.5%
	1-4	必要性は理解するが、推進は難しい。	9	4.5%
	1-5	教育や周知が必要	4	2.0%
	1-6	社会の意識や環境(法整備含む)の変化が必要	12	6.1%
	1-7	女性自身(意識など)に問題がある。	2	1.0%
	1-8	すでに男女平等である	7	3.5%
	1-9	その他	15	7.6%
		小 計	73	36.9%
2 社会全体	2-1	個人の能力を重視すべきという考え	3	1.5%
	2-2	思いやりや個人を尊重する心が大切である。	14	7.1%
	2-3	社会は男性中心であるという考え	0	0.0%
	2-4	若い世代や将来への期待	6	3.0%
	2-5	その他	10	5.1%
	小 計	33	16.7%	
3 子育て、介護、教育	3-1	子育て、介護支援制度の充実	15	7.6%
	3-2	親の教育、しつけの問題	1	0.5%
	3-3	子育てに関する心構え	2	1.0%
	3-4	その他	7	3.5%
	小 計	25	12.6%	
4 仕事	4-1	雇用問題全体の改善	4	2.0%
	4-2	女性が働く労働環境の整備	4	2.0%
	4-3	働き方に関する考え	2	1.0%
	4-4	その他	1	0.5%
	小 計	11	5.6%	
5 女性の人権と暴力 (DV、セクハラなど) 性的マイノリティ	5-1	セクハラについて	2	1.0%
	5-2	DV・ストーカー、性犯罪	3	1.5%
	5-3	性的マイノリティ(LGBT)	2	1.0%
	5-4	その他	1	0.5%
	小 計	8	4.0%	
6 行政の役割	6-1	男女共同参画に関する意識啓発の必要性	2	1.0%
	6-2	男女共同参画推進への期待(指導力の発揮など)	7	3.5%
	6-3	その他	3	1.5%
	小 計	12	6.1%	
7 その他	7-1	アンケートについての意見	28	14.1%
	7-2	市役所全体への意見	5	2.5%
	7-3	その他	3	1.5%
	小 計	36	18.2%	
総合計			198	100.0%

※自由意見に記入があった回答者は179人でしたが、1人で複数の意見を書いている方がいるため、意見の総合計は人数を上回ります。

調査用紙

男女共同参画に関する市民アンケート調査【調査票】

・ご記入にあたって

- ①設問は、選択肢の中らご自分の考えに最も近いものを選ぶ「選択式」です。
あてはまる番号を選んで○で囲んでください。
- ②設問によっては、1つではなく複数の選択肢を選んでいただく場合があります。
- ③設問によって、回答していただく方が限られる場合があります。
各設問の注意書きをよくご確認の上、お答えください。

最初に、あなた自身のことについて伺います

①から⑥の項目ごとに1つずつ選んで番号に○をつけてください。

①性別	1 男性 2 女性 3 その他 ※
②年齢	1 20歳代 2 30歳代 3 40歳代 4 50歳代 5 60歳代
③働き方	1 正社員・正職員 2 契約・派遣社員 3 パート・アルバイト 4 自営業 5 家事専業・無職 6 その他
④結婚はしていますか	1 している（事実婚を含む） 2 していない（離別・死別含む）
⑤中学生以下のお子さんはいますか	1 いる 2 いない
⑥同一世帯に介護が必要な家族（配偶者以外）はいますか	1 いる 2 いない

※①性別の「3 その他」とは、性的マイノリティを考慮した選択肢です。
戸籍上の区分とは別にご自身の主観によりご記入ください。

1 男女共同参画（社会）に関する考え方について伺います

問1 「男女共同参画（社会）」という言葉を知っていますか。どちらか1つ選んでください。

- 1 はい
2 いいえ ⇒※下の用語解説をご覧ください

問2 以下の各場面では、男女は対等に活躍している、あるいは男女共同参画が進んでいると思いますか。①から⑩の項目ごとに1つずつ選んでください

	思う	やや思う	あまり思わない	思わない
① 社会全般の風潮	1	2	3	4
② 法律・制度での扱い	1	2	3	4
③ 政府や企業での重要な意思決定の場	1	2	3	4
④ 学校などの教育の場	1	2	3	4
⑤ 就職の機会、職場での働き方や処遇	1	2	3	4
⑥ 家庭内での決定権や家事の分担	1	2	3	4
⑦ 町内会・自治会の活動	1	2	3	4
⑧ PTAやボランティアなどの地域活動	1	2	3	4
⑨ テレビや新聞での扱われ方	1	2	3	4
⑩ 人生を決める選択肢や自由さ	1	2	3	4

用語解説 男女共同参画とは

男女が性別に関わらず個人として尊重され、家庭生活及び地域社会並びに職業生活において対等に参画し、並びに個性及び能力を発揮し、それらの利益を享受し、かつ共に責任を負うこと。

～横須賀市男女共同参画推進条例 第2条～

男女が互いに人権を尊重し、責任も分かち合いながら、個性と能力を発揮できる社会を目指しています。

問3 男女共同参画を進める必要があると思いますか。どちらか1つ選んでください。

- 1 進める必要がある ⇒問4へ
- 2 進める必要はない ⇒問5へ

(問3で「1 進める必要がある」と回答した方だけお答えください)

問4 男女共同参画を阻害している理由として、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

- 1 人を性別によって役割を区別する考え方や慣習が根強いから
- 2 女性は意思決定の場への進出が遅れていることで発言力が弱いから
- 3 女性の役割は家庭内での家事、育児、介護などという考えが強いから
- 4 社会全般に男性優位の考え方や慣習が根強いから
- 5 女性には高い職業能力や意思決定の場に出るための経験や機会が不足しているから
- 6 仕事と家庭の両立が図れる行政サービス、民間サービスが不足しているから
- 7 その他()

(問3で「2 進める必要はない」と回答した方だけお答えください)

問5 男女共同参画を進める必要はないと思う理由について、1つ選んでください。

- 1 すでに男女共同参画社会になっているから
- 2 男女では性別による身体の違いや能力差、適性に応じた役割があるから
- 3 「女性は男性に従うべき」という慣習や価値観があるから
- 4 社会的に女性の発言力が強くなっているから
- 5 その他()

2 生活の中での男女共同参画について伺います

問6 「男は外で仕事をするべき、女は家庭を守るべき」という考え方に対して、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

- 1 賛成
- 2 やや賛成
- 3 やや反対
- 4 反対

(現在、夫婦(事実婚を含む)で暮らしている方だけお答えください)

問7 家事などは誰が日常的に担っていますか。また、理想ではどうしたいと考えていますか。①から⑨の項目ごとに1つずつ選んでください。

	(1) 現在の担い手						(2) 理想の担い手					
	夫と妻で分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外の家族	外部サービスを利用	その他	夫と妻で分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外の家族	外部サービスを利用	その他
①炊事	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
②洗濯	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
③掃除	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
④日常の買い物 (食料品、日用品など)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑤子どもの身のまわりの世話	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑥子どものしつけ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑦子どもと遊ぶ、 勉強などを教える	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑧高齢者や障害者、病人の 介護・看護	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑨地域活動 (自治会、PTAなど)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

(全員、お答えください)

問8 家庭での子どもの教育やしつけについて、あなたの考えに最も近いものを項目ごとに1つずつ選んでください。

	賛成	やや賛成	やや反対	反対
①職業や結婚などの人生設計に対する助言は男女で区別すべきである	1	2	3	4
②男の子は男らしく強く、女の子は女らしく心優しく育てるべきである	1	2	3	4
③食事の支度や洗濯など日常的な家事は男女を問わず身に付けさせるべきである	1	2	3	4
④家庭での子どものしつけや教育は母親の責任で行うべきである	1	2	3	4

問9 あなたが介護・看護を受けるとしたら、主に誰に世話をしてほしいですか。
1つ選んでください。

- | | | |
|-----------------|-----------|----------|
| 1 配偶者（夫または妻） | 2 実の娘 | 3 実の息子 |
| 4 息子の妻 | 5 娘の夫 | 6 その他の家族 |
| 7 在宅介護サービスを利用する | 8 施設に入所する | 9 その他 |

3 女性の活躍推進について伺います

問10 女性の（1）現在の働き方（2）理想の働き方について、それぞれ1つずつ選んでください。

※女性はご自身について、男性は妻（事実婚を含む）の働き方についてお答えください。

※妻がいない男性は、（2）理想の働き方のみお答えください

（女性および妻がいる男性のみ、お答えください）

（1）女性の現在の働き方

- | |
|----------------------------------|
| 1 ずっと働く（勤務条件等を変えない）※ |
| 2 ずっと働く（結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす）※ |
| 3 結婚までは働き、結婚を機に仕事を辞める |
| 4 子どもができるまで働き、出産を機に仕事を辞める |
| 5 子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く |
| 6 ずっと職業を持たず、家事に専念する |
| 7 その他（) |

※産前産後休暇と育児休業を取る場合を含む

（全員、お答えください）

（2）女性の理想の働き方

- | |
|----------------------------------|
| 1 ずっと働く（勤務条件等を変えない）※ |
| 2 ずっと働く（結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす）※ |
| 3 結婚までは働き、結婚を機に仕事を辞める |
| 4 子どもができるまで働き、出産を機に仕事を辞める |
| 5 子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く |
| 6 ずっと職業を持たず、家事に専念する |
| 7 その他（) |

※産前産後休暇と育児休業を取る場合を含む

問11 女性が長く働き続けるためにはどのようなことが特に重要だと思いますか。
あてはまる番号を3つまで選んでください。

- | | |
|--|--|
| 1 賃金・昇給・昇進・昇格等の男女間の格差解消 | |
| 2 育児・介護休業制度等の充実 | |
| 3 フレックスタイム・在宅勤務など柔軟な勤務形態の導入 | |
| 4 保育サービス（早朝・延長・休日・夜間・病後児・乳児保育等）の整備の充実 | |
| 5 介護サービス・施設等の整備の充実 | |
| 6 結婚・出産・育児・介護等のために退職した社員の再雇用制度の充実 | |
| 7 女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力 | |
| 8 女性自身の自覚、意欲・能力の向上 | |
| 9 男性の意識の変化 | |
| 10 その他（ ） | |
| 11 特にない | |
| 12 わからない | |

4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について伺います

問12 男女ともに仕事と生活を両立できるようにする公的な取り組みとして、あなたが最も重要だと思うものを1つ選んでください。

- | | |
|---|--|
| 1 社会全体に対する意識づくり | |
| 2 職場における差別禁止のための制度の強化 | |
| 3 両立支援のための制度の強化 | |
| 4 企業、事業所に対する環境整備の働きかけ | |
| 5 出産や育児、介護等に関するサービスの充実 | |
| 6 就職や復職、起業に対する支援 | |
| 7 その他（ ） | |

問13 育児や介護を行うために、育児休業・看護休暇・介護休業・介護休暇を取ったことがありますか。①から④の項目ごとに1つずつ選んでください。

	ある	ない
①育児休業 (原則として、1歳未満の子を養育するための休業)	1	2
②看護休暇 (小学校就学前の子の看護のための休暇)	1	2
③介護休業 (要介護状態にある家族を介護するための休業)	1	2
④介護休暇 (要介護状態にある家族を短期に介護するための休暇)	1	2

5 男性中心型労働慣行の是正について伺います

問 14 男性が育児休業や介護休業などを取ることにについて、あなたの考えに最も近いものを、①～④の項目ごとに1つずつ選んでください。

	積極的に取るべき	どちらかといえば、取る方がよい	どちらかといえば、取らない方がよい	取るべきではない
①育児休業	1	2	3	4
②看護休暇	1	2	3	4
③介護休業	1	2	3	4
④介護休暇	1	2	3	4

問 15 育児休業や介護休業を取る男性は、女性に比べて少ないのが現状です。その理由について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

- 1 職場の理解を得られないから
- 2 職場の同僚に申し訳ないと思うから
- 3 昇進や昇給に影響する恐れがあるから
- 4 休業後の職場復帰に不安があるから
- 5 仕事の量が多いから
- 6 仕事の責任が重いから
- 7 休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから
- 8 女性の方が育児や介護に向いているから
- 9 その他 ()

問 16 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくために、最も必要だと思うものを1つ選んでください。

- 1 職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる
- 2 労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間を多く持てるようにする
- 3 男性自身の家庭生活や地域活動に参加することに対する抵抗感をなくす
- 4 社会の中で、男性が家庭生活や地域活動に参加することに対する評価を高める
- 5 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る
- 6 男性は積極的に参加する必要はない
- 7 その他 ()

6 女性の人権について（DV、セクハラなど）について伺います

問 17 「女性の人権が侵害されている」とあなたが感じるのはどのような場合ですか。
あてはまるものをすべて選んでください。

- | | | |
|--------------------------------|------------------|-----------|
| 1 買春・売春・援助交際 | 2 性風俗店 | 3 ストーカー行為 |
| 4 夫や恋人からの暴力 | 5 レイプ | 6 痴漢 |
| 7 雑誌や広告のヌード写真 | 8 職場や学校、地域でのセクハラ | |
| 9 ミス・コンテスト | 10 職場での男性との待遇の差 | |
| 11 家事負担が女性にかたよっていること | | |
| 12 「婦人」「未亡人」「女流」など女性にだけ用いられる言葉 | | |
| 13 その他（ | | ） |

問 18 最近5年以内に、職場や学校、地域などで、①から⑧の行為をされてあなた自身が不快な思いをした、または家族や友人で不快な思いをした人を知っていますか。それぞれ1つずつ選んでください

	あ る (知っている)	な い (知らない)
①不必要に体を触られた	1	2
②交際や性的関係を迫られた	1	2
③交際や性的関係を拒否した人から不当な扱いや嫌がらせをされた	1	2
④宴会でお酌やデュエットを強要された	1	2
⑤性的なうわさを流された	1	2
⑥年齢や容姿のことで不愉快な意見や冗談を言われた	1	2
⑦異性との交際関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた	1	2
⑧性的な冗談や会話につきあわされた	1	2

問 19 セクハラをなくすためにはどのような取り組みが必要だと思いますか。
あなたが最も重要だと思うものを1つ選んでください。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 公的機関の相談や指導の強化 | 2 民間ボランティア団体等のチェックや相談 |
| 3 事業所内でのチェックや相談 | 4 セクハラを禁止する法律や条例などの強化 |
| 5 セクハラは人権侵害だという社会意識づくり | 6 その他（ |
| | ） |

7 性的マイノリティについて伺います

問23 あなたは性的マイノリティ（またはLGBT）という言葉を知っていますか。

- 1 はい
- 2 いいえ ⇒※次ページの用語解説をご覧ください

問24 あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向（同性愛など）に悩んだことがありますか。

- 1 はい
- 2 いいえ

問25 現在、性的マイノリティ（またはLGBT）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いませんか。
あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

- | | |
|----------------|---------|
| 1 思う | ⇒問 26 へ |
| 2 どちらかと言えば思う | ⇒問 26 へ |
| 3 どちらかと言えば思わない | ⇒問 27 へ |
| 4 思わない | ⇒問 27 へ |

(問25で「1 思う」「2 どちらかと言えば思う」と回答した方だけお答えください)

問26 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いませんか。
あてはまるものを2つまで選んでください。

- 1 行政が市民等へ周知啓発を行う
- 2 相談窓口等を充実させ、その存在を周知する
- 3 生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う
- 4 法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する
- 5 当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う
- 6 働きやすい職場環境づくりの取り組みをする
- 7 わからない
- 8 その他 ()

用語解説 性的マイノリティ（LGBT）とは

同性が好きな人や、自分の性に違和感を覚える人、または性同一性障害などの人々のことをいいます。「セクシュアルマイノリティ」、「性的少数者」ともいいます。

「異性を愛するのが普通だ」とか、「心と体の性別が異なることなどない、性別は男と女だけである」としている人からみて少数者という意味です。

最近では、以下の表の頭文字をとって、「LGBT」とも呼ばれています。

[LGBTの説明]

頭文字	意味
L（レズビアン）	女性の同性愛者
G（ゲイ）	男性の同性愛者
B（バイセクシュアル）	両性愛者
T（トランスジェンダー）	生まれたときの法的・社会的性別とは違う性別で生きる人、生きたいと望む人

8 男女共同参画推進のために必要な取り組みについて伺います

問 27 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを①から④の項目ごとに選んでください。

①個人で心掛けること（1つ選んでください）

- 1 「男らしく」「女らしく」ということにとらわれず、「自分らしく」行動する
- 2 男女ともに独立した人格としての自覚と責任意識を高める
- 3 性別に関する偏見や先入観を持たないように心掛ける
- 4 男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ
- 5 その他（ ）

②家庭での取り組み（1つ選んでください）

- 1 夫婦の関係が対等であるように努力する
- 2 家事、育児、介護は男女を問わず分担し、協力する
- 3 家事や育児の重要性を正當に評価する
- 4 「嫁・姑」「後継ぎ」「墓」「氏」など、家系を中心にした家族観や慣習を改める
- 5 子育てにおいて、性別によって教育やしつけの方針、態度を区別しない
- 6 その他（ ）

③社会全体での取り組み（1つ選んでください）

- 1 性別を理由にした差別的待遇を禁止・撤廃する法律を強化する
- 2 性別に関わらず自分の人生を決められるよう、偏見や先入観を排除する
- 3 テレビや新聞、雑誌などで性別による固定的な役割分担に基づいた男女の扱いをしない
- 4 性的な興味の対象として、人を扱わない
- 5 社会活動や政治に、女性がより参画できるような仕組みを作る
- 6 社会活動や政治に女性を積極的に登用し、発言力を高める
- 7 その他（ ）

④横須賀市における取り組み（2つまで選んでください）

- 1 学校教育における男女共同参画教育を進める
- 2 男女共同参画の意識を高めるための情報提供（冊子など）や学習の場（講座など）を充実する
- 3 事業所に対して職場における男女格差の是正を働きかける
- 4 事業所に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける
- 5 多様な保育サービスを充実する
- 6 介護施設、介護サービスを充実する
- 7 女性を対象とした各種相談やDV被害から救済するための体制を充実する
- 8 ひとり親世帯の生活を安定させるための支援を充実する
- 9 男性も女性も地域で活動し、地域とのつながりをつくれるように支援する
- 10 夫婦がともに参加できる家事・育児や介護に関する学習の場（講座など）を充実する
- 11 市役所の責任ある立場に女性を積極的に登用する
- 12 市の施策に関する審議等を行う場に女性の参画を進める
- 13 市役所が率先して模範となることで、男女共同参画の職場づくりを働きかける
- 14 女性の能力・技術を高め、チャレンジをうながすための支援を充実する
- 15 性別に関する人権侵害をチェックし、是正するための制度を充実する
- 16 男女共同参画推進を目的とした市民活動を支援する
- 17 その他（ ）

**9 最後に男女共同参画に関してご意見がありましたら、ご自由にご記入ください
ご協力ありがとうございました**

※ご記入がおわりましたら、同封の返信用封筒にて8月31日（水）までに投函してください